

さいたま市の食育取組状況

平成28年度

さいたま市食育推進協議会

「さいたま市の食育取組状況《平成28年度》」について

本冊子は、さいたま市の各部局及び各種食育関係団体における食育に関する取組を把握するために、さいたま市食育推進協議会、さいたま市食育推進担当者会議にて取りまとめた資料を基に、平成20年度より作成を開始し、今回で第9号となります。

平成28年度は、『まごころに感謝して』食べる』を重点目標とし、関係団体をはじめ、地域で積極的に活動を展開している市民の方々と食育の取組を推進してきました。

【さいたま市食育推進協議会】

第1回 平成28年 7月14日

第2回 平成29年 2月2日

【さいたま市食育推進担当者会議】

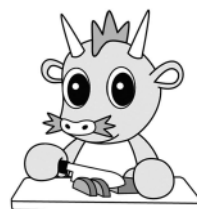
第1回 平成28年 5月18日

第2回 平成28年 11月1日

第3回 平成29年 1月24日

「人間が生きていく上で欠かせない大切な“食”について、正しい知識をもち、考え、実践し、伝えていくための取組」について、さいたま市の食育を推進していくための資料として、ご活用ください。

さいたま市保健福祉局保健部健康増進課



目次	1	食育関係団体(さいたま市食育推進協議会委員)の食育取組状況	1
	2	さいたま市食育関係部局の食育取組状況	8
	3	公民館の食育取組状況	28
	4	公立小・中学校の食育取組状況(小学校 36~47、中学校 48~58)	36

1 食育関係団体（さいたま市食育推進協議会委員）の食育取組状況

- ・ 人間総合科学大学
- ・ 公益社団法人 埼玉県栄養士会
- ・ さいたま市食生活改善推進員協議会
- ・ 日本チェーンストア協会 関東支部
- ・ さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会
- ・ 一般社団法人 さいたま市食品衛生協会
- ・ 厚德幼稚園（一般社団法人 さいたま市私立幼稚園協会）
- ・ 市民委員（大久保料理教室）
- ・ 市民委員（特定非営利活動法人 日本成人病予防協会）

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
団体名	事業名	計画の目標				ライフステージ					平成28年度			成果・課題等			
		5つの「食べる」				乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 /継続	実施 場所		参加者数 (実施回数)	取組内容〔実績〕 (対象・実施日・場所・内容等)	
		三 食	い っ し よ	確 かな 目 的	ま ご ろ												食 文 化
人間総合科学大学	野菜の植え付け・収穫体験			○	○	◎			○				継続	その他	10名 (3回)	吉川市役所および吉川市4Hクラブの方々との協働により、野菜の植付体験を行う予定であったが、悪天候のため、栽培している野菜の生育状況の観察および野菜の販売所(直売場など)の見学をした。後日、収穫した野菜は、学園祭で販売し、吉川市市民祭りでは、その野菜を用いて豚汁を作り、販売した。	生育過程の野菜について観察する経験は乏しい学生が多く、関心を持って農家の方に質問をしている様子が見られた。直売場の見学では、農家の方々ではなく、売り手にとっても天候不順による野菜の出荷の影響について話を伺うことができ、勉強になったようである。また、多くの方々の苦勞によって、食べ物が高卓に並ぶことに改めて感謝の気持ちを抱いていた。
人間総合科学大学	彩々楽グループ、人間総合科学大学農業サークルコラボランチ								○	○			新規	その他	1回	地元農家から購入する埼玉伝統野菜と農業サークルが栽培し、収穫した京野菜を彩々楽様に供給し、その食材を使用した料理のメニュー提案をした。	地元農家から購入する埼玉伝統野菜と農業サークルが栽培し、収穫した京野菜を彩々楽様に供給し、その食材を使用した料理を提供して頂いた。 野菜の出来があまりうまくいかなかったものがあった。
人間総合科学大学	さいたまヘルスケア産業創出委員会:さいたま健康プロジェクト88一食の適塩生活												新規	その他	2回	埼玉の医療供給不足という課題解決に向け、新たなヘルスケア産業を創出し、ちいきの「まち・ひと・しごと」が元気な「さいたま市」の実現を図る。 「さいたま健康プロジェクト85」 一食の「適塩」生活定着に向けて― (ナト・カリ食の普及)	・さいたま商工会議所の商・サービス部会の会員に向け、さいたま市の食塩摂取状況及び適塩生活の大切さ、ナト・カリ塩の紹介のセミナーを実施。 ・試作品を作成していただき、試食会を開催。 ・どのように普及していくかが今後の課題。
人間総合科学大学	規格外農産物の加工利用								○	○			新規	その他	4回	近隣の農産物生産者より、市場規格からはずれてしまう農産物をご提供いただき、農業サークルにて加工食品を作成し、販売した。 「夏みかんのフロマージュ」	学内購買部および蓮田市民祭り、JAN南彩道の駅にて、販売した。 「夏みかんのフロマージュ」
人間総合科学大学	高校生の食事	◎							○				新規	その他	高校生30名	高校生の「栄養」の授業内で講義。 家庭科の教科書の記載内容に運動しつつも、新しい情報を取り入れ、1日3回の規則正しい食事の重要性を強調した。	対象高校の食生活調査をした経緯があり、その結果を紹介したことで興味を持ってもらえた。
人間総合科学大学	出張講義「健康食品の種類」	◎											新規	その他	60から70歳代中心の約60名	健康食品の意味や分類、期待できる効果などについて説明し、一番の健康食品は規則正しいバランスのとれた食事であることを説明した。	健康食品には強い効果が求められないこと、日ごろの食生活が大切であることをご理解いただけたことが、アンケート結果からも読み取れた。
人間総合科学大学	蓮田朝市で野菜販売			○		◎			○	○			新規	その他	2回	日曜日朝に開催される朝市で、農業サークルが栽培し収穫した野菜を販売した。	市役所や商工会議所、農家の方々や接し、食を消費者につなげる役割の大切さを学んだ。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check					
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ								平成28年度			
		5つの「食べる」 三食	い っ し よ	確 かな 目 標	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	取組内容【実績】 (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等
公益社団法人 埼玉県栄養士会	県産米を使ったおにぎり 教室	◎	◎	○	○	◎	○	○						継続	その他	市内(1回)…保育園児27人と職員9人 市外(3回)…幼児、学童53人と保護者32人 合計 132人(子ども80人、職員、保護者41人)	お米の働きやどうやってお米ができるのかまた、朝ごはんの大切さ、スポーツ時におけるお米の重要性などについて、保護者や友達とおにぎり作りを通し、楽しく学んでもらう。 今年度は9月～12月の期間、さいたま市を含み県内4か所で実施した。	今回の対象は、幼児のほか、スポーツ少年団の小学生などにも広げて実施した。熱心にエプロンシアターやお米の話を聞いてくれた。 日頃、保護者と一緒に「作って食べる」機会が少ない子供たちにとって、会話しながら楽しく作っている姿が印象的であった。
公益社団法人 埼玉県栄養士会	県産米粉を使った親子 クッキング	○	◎	○	○	◎	○	○	○					継続	その他	市内(1回)…子ども10人保護者10人 市外(3回)…子ども31人と保護者30人 合計 81人(子ども40人、保護者40人)	米粉と小麦粉の違い、米粉の特徴(小麦アレルギーの人にも使用できることなど)、米粉の利便性などの説明や米粉を使用した料理の調理実習をし、理解を深めてもらう。また、調理実習は、親子のコミュニケーションの場としても、楽しんでもらう。 なお、会場により、紙芝居などの媒体を使用し展開をした。実施時期は10～12月。	アンケートから、普段は食べない野菜なども、食育紙芝居を見ることが、一緒に作ることで、進んで食べるなど、「参加してよかった」等の保護者からの感想が寄せられた。
公益社団法人 埼玉県栄養士会	児童福祉施設における クッキング講座	○	◎	○	○	◎				○	○			継続	その他	29名 (児童福祉施設に勤務している栄養士、調理員、保育士)	「スキムミルク」を素材にした調理実習を行い、献立づくりの幅を広げる一助としてもらう。 保育園、養護施設等の「食育」の取り組み事例発表やグループワークを行い、交流を深める機会とする。1日(午前、午後)を通して実施した。	様々な視点での食育の取り組み事例が参考になった、スキムミルクを使用した料理を献立づくりに活かしたいという感想が寄せられた。
公益社団法人 埼玉県栄養士会	SAITMAスマイルウーマン フェスタにおける栄養相談	◎	◎	○		○				○	○	○	新規	中央区	約300名 (大人)	9月10,11日にさいたまスーパーアリーナにおいて開催された「SAITMAスマイルウーマンフェスタ」において骨密度測と栄養相談を実施した。測定結果等に基づき、バランスよい食事の大切なことを観点に食育活動を行った。	骨密度測定結果からの栄養指導、特に青年期(中・高校生)のお子さんをお持ちの方には、この時期の食生活の大切さについて説明する良い機会となった。	
公益社団法人 埼玉県栄養士会	みんなの食育アカデミー 「ウェルネスセミナー」	◎	◎	○		◎				○	○	○	新規	その他	1,179名 (18会場)	主に「健康長寿プロジェクト」に取り組んでいる市町村、並びに企業における従業員の健康教育の一環として、希望があった団体に対し、食生活の問題点、食事バランス等について講話をした。	市町村の「健康長寿プロジェクト」に取り組んでいる人、商工会、食生活改善グループ、企業に勤務する方々など、多岐に所属する県民が参加された。 日頃の食生活を振り返り、食事バランス、減塩の大切さなど、改めて理解が深まったという感想が寄せられた。	
公益社団法人 埼玉県栄養士会	県庁オーブンデーにお ける栄養相談	○		○		○				○	○	○	継続	浦和区	82人	県民の日(11月14日、県庁内特設会場にて骨密度測定と栄養相談を実施した。測定結果の説明や骨粗鬆症予防のためのバランスよい食事について説明をした。	骨密度測定は希望者が多く、待ち時間が長くなってしまった。次回は測定器の事前調整することや、要員増を検討したい。	
さいたま市食 生活改善推 進員協議会	総会	◎	◎	○	○	○					○	○	継続	浦和区	249名 (1回)	4/21「市民会館うらわ」 ・総会 ・記念講演 食は楽しく♪ 講師:関東農政局 経営・事業支援部 地域食品課長 鶴岡佳則氏(食育コンシェルジュ)	すみやかに議事進行がおこなわれた。 紙コップの匂いを嗅いで中身を当てる実験から 五感(嗅覚)を鍛え、食と生命の安全を守る感覚を養うことの大切さを学んだ。	
さいたま市食 生活改善推 進員協議会	理事会	○	○	○	○	○					○	○	継続	複数区	75名 (4回)	7/4 第15回総会報告・反省・28年度事業について 他 10/3「パパとチャレンジわくわくクッキング」報告 他 1/13 食改事業報告書提出の件、総会に向けて 3/23 H28年度総会打合せ	すみやかに議事進行がおこなわれ、活発な意見交換ができた。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do					Check									
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度		成果・課題等							
		5つの「食べる」 三食	い っ し よ	確 かな 目	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期		新規 継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)			
さいたま市食生活改善推進員協議会	合同研修会	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	継続	複数区	229名 (3回)	講義と調理実習 7/4 歯と口の健康 10/3 生活習慣病予防の食生活 1/13 休養・こころの健康づくり	本年度は講義はさいたま市保健所で行いグループから3～4名が参加して有意義な学習ができた。調理実習は会場(岩槻区役所保健センター)の都合でリーダーのみの参加となり十分な講習ではなかったが、参加者全員前向きに取り組み、グループに伝達した。
さいたま市食生活改善推進員協議会	リーダー研修会	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	継続	複数区	浦和支部 250名(7回) 大宮支部 94名(4回) 中央支部 249名(9回) 岩槻支部 91名(3回)	講義と調理実習 浦和支部5/16「パパとチャレンジ！わくわくクッキング」他 大宮支部 9/2「朝食について」他 中央支部 6/9「減塩について」他 岩槻支部 7/20「高血圧予防」他	地区グループ伝達のための研修会なので皆前向きに取り組んでいる。 浦和支部の場合は会場の都合で参加人数が限られ、十分に研修できないことが残念である。
さいたま市食生活改善推進員協議会	グループ伝達講習会	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	継続	全区	5,457名 (338回)	講義と調理実習 合同研修、リーダー研修で学んだことを 会員及び地域住民に伝達する。 浦和支部23グループ230回 3,458人 大宮支部14グループ 81回 1,496人 中央支部2グループ 18回 249人 岩槻支部1グループ 9回 254人	合同研修、リーダー研修で学んだ内容を正しく解かりやすく伝達することができた。特に合同研修で学んだ歯の病気と全身疾患の関係やこころの健康づくりなど、食と健康に対して関心を深めることができた。
さいたま市食生活改善推進員協議会	支部活動	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	継続	複数区	256名 (6回)	浦和支部：味噌づくり教室 大宮支部：ウォーキング、視覚障がい者健康づくり教室 岩槻支部：そば打ち体験、工場見学(ガトーハラダ・こんにやくパーク)	一般の人達とふれあう会場において、健康情報の発信や相談、減塩について話すなど幅広く活動することができた。今後も地域の人達と共に学び、食生活に対してより関心を深めていきたいと思う。
さいたま市食生活改善推進員協議会	グループ活動	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	継続	複数区	4,673名 (69回)	浦和支部(2,939人) 「夏休み子どもクッキング」他55回 大宮支部(154人) 「親子で楽しくクッキング」他8回 岩槻支部(1,580人) 「マルシェin目白大学」他3回	地域のニーズに合わせて高齢者から乳幼児まで、男性の健康、女性の健康等、さまざまな食育事業を行ってきた。今後もあらゆる世代へのよりよい健康な食事づくりについて伝えていきたい。
さいたま市食生活改善推進員協議会	保健センター事業等への協力① 親子食育講座	○	○	○	○	○	○						○				継続	複数区	114名 (49組)	8/5 西区 9組 18人 8/9 見沼区 15組 33人 8/19 南区 16組 41人 8/26 浦和区 9組 22人 ・「元気になるお弁当」のお話 ・ヌウトコバトンのおにぎりづくり	「親子食育講座」ではエプロンシアターのお話を子どもたちが真剣に聞いてくれた。 保健センターの様々な事業に協力する事で参加者の健康づくりに寄与することが出来た。今後も、多様なニーズに答えることが出来るように前向きに学んで行きたい。
さいたま市食生活改善推進員協議会	保健センター事業等への協力②	○	○	○	○	○	○						○				継続	複数区	2,249名 (6回)	6/3 「食育月間イベント」 6/25 にこにこ食育教室 7/9 親子で運動 10/1 にこにこ食育教室 10/15 のびのび子育て広場 11/6 浦和区健康まつり	保健センターの様々な事業に協力することで参加者と触れ合い、健康づくりに寄与することができた。今後も多様なニーズに応える事が出来るように前向きに努力していきたい。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do					Check						
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度		成果・課題等				
		5つの「食べる」 三食	確かな目 いっしょ	まごころ 食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容【実績】 (対象・実施日・場所・内容等)		
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業① 財団法人日本食生活協会委託事業	○	○	○	○	○					○	○	継続	岩槻区	30名 (1回)	12/9 ヘルスメイトがTUNAGU(繋ぐ)パートナーシップ事業生活習慣病予防のための減塩推進スキルアップ事業 講義と調理実習	講義と調理実習 減塩を心がけ、香辛料や香味野菜でおいしく料理をすることができることを参加者は学んだ。生活習慣病予防のための工夫などを伝えることが出来た。	
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業② 埼玉県委託事業	○	○	○	○	○					○	○	○	継続	複数区	60名 (2回)	11/25米料理教室中央区役所保健センター 11/29米料理教室西浦和公民館	毎日食べているご飯が様々な料理に変身するので参加者から喜びの声が聞かれた。 主食の鮭ずしをはじめ、アンチョビ、野菜を取り合わせたサラダ。汁物にご飯で作ったきりたんぽ。デザートにライスプリンなど。さっそく家庭で作りたいと参加者からの感想を聞き、今後も地域の人達に寄り添うことができるよう食育活動を進めていきたい。
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業③ さいたま市委託事業	○	○	○	○	○	○				○	○	○	継続	全区	195人 (10回)	パパとチャレンジわくわくクッキング テーマ 命に感謝して“いただきます”残さず食べて“ごちそうさま” 6/25 浦和区19人岸町公民館 6/25 桜区12人田島公民館 6/25 南区 10人膳前公民館 7/23 緑区 25人尾間木公民館 7/23 西区 20人植水公民館 6/18 見沼区25人見沼区役所保健センター 6/25 大宮区24人大宮区役所保健センター 6/25 北区 19人北区区役所保健センター 6/19 中央区25人と野本町コミュニティーセンター 6/25 岩槻区16人岩槻区役所保健センター	命に感謝して“いただきます”残さず食べて“ごちそうさま”のテーマで「おにぎらず」子供に伝える伝承料理「すいとん」を作った。 子どもと一緒に協力して一つのことを成し遂げることがないので大変いい経験になった。と参加したパパの感想。
さいたま市食生活改善推進員協議会	委託事業④ 地域委託事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	360名 (20回)	7/29 岩槻区保健センター親子食育教室22人 8/1 植水公民館生活習慣病予防の食事15人 8/25 谷田公民館子供クッキング12人 8/29大砂土公民館手軽にアレンジとりわけ幼児食28人 9/17 原山公民館糖尿病予防18人 10/14 大砂土東公民館生活習慣病予防の食事16人 10/20桜木公民館メタボ予防教室20人 10/20桜区役所保健センター生活習慣病予防15人 11/2七里公民館生活習慣病予防の食事20人 11/7指扇公民館生活習慣病予防の食事19人11/18土合公民館 高血圧予防の食事20人 11/19尾間木公民館生活習慣病予防の食事18人 11/29中央鈴谷公民館生活習慣病予防の食事15人 12/19上木崎公民館骨粗鬆症予防20人 1/19大宮北公民館高齢者の低栄養13人 1/24高齢者生涯活動センター生活習慣病予防15人 1/25六辻公民館生活習慣病予防10人 2/8南箇公民館生活習慣病予防14人 2/20岩槻区保健センター生活習慣病予防の食事28人 2/24中央区保健センターロコモ予防22人	バランスのよい食事と健康の関わりを多くの参加者に伝えることができた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度				
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
日本チェーンストア協会 関東支部	(株)マルエツ 料理&カルチャー教室 いーとびあ	○					○						継続	その他	・小学1、2年生 15人 ・小学3、4年生 24人 ・小学5～中学生 17人 各年間12回×3コース	料理の作り方だけでなく、栄養知識、包丁など調理器具の正しい使い方、食事マナー等食育をサポート。 料理を好きになってもらうためのクラス、栄養やマナーもやさしく伝える ・小学3、4年生 料理への興味を深め、食事の大切さやマナーを伝える。米のとぎ方やだしの取り方も実施 ・小学5～中学生 食に関する知識を深め、献立作りを行う。	いーとびあの食育講座として、保護者様から好評をいただいている人気講座。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	(料理教室) ひまわり	◎	○	○	○	○						○	継続	浦和区	各回12名 第1水曜 年10回	毎月行っているので、主菜、調理法等が重ならないようにレシピを準備する。特に主食は白米のみではなく、ハトムギ、キヌア、アマランサス等の雑穀を混ぜてみた。簡単にレシピ、調理手順の説明をした後、実習し試食してもらった。	副菜から主にとっていた食物繊維だが、雑穀を取り入れると主食からもとることができること等、理解してもらえたと思う。調理に慣れている人達なので調味料の計り方が大ざっぱになりがちで注意したい。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	(料理教室) 食生活講習会	◎	○	○	○	○						○	継続	浦和区	第2木曜 各回12名 第2金曜 各回11名	木曜クラス、金曜クラス、共に同じレシピを使用。長く続いている教室なので、話題のある調理、旬の食材を取り入れ、なるべく、目新しく見えるよう工夫してレシピを作成している。簡単に調理手順を説明したあと、実習し、試食する。	きちんとレシピ通りに調理するクラスで、調味料の計り方もきちんとしている。 同じ食材を使って、他の調理法を知りたい等、熱心に質問される方が多い。こちらも勉強して対応している。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	(料理教室) 男の手料理	○	◎	○	○	○						○	継続	中央区	第3水曜 男性各回6名 年10回	日常的な献立を中心に、あらゆるメニューに挑戦していただき、料理の基本、由来などが勉強できるレシピを提供し、実習している。	初回以来参加している方が半数を占め、高齢の方が多いため、参加者の増加を願いつつ、内容を充実させ、努力していきたいと思っている。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	(料理教室) らくらく健康クッキング	◎	○	○	○	○						○	継続	中央区	第4水曜 各回7名 年10回	毎月、担当を替え、メニューの主菜、調理法を工夫し、目新しく感じるようにしている。 簡単な説明をしたあと、それぞれのテーブルで実習をし、試食する。	食材の産地にこだわる方もいるので、買い物の際にも気をつけるが、何よりも美味しく仕上がるような調理の工夫をしたいと思う。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	乳幼児栄養相談	○	○	○	○	○	○						継続	浦和区	親子2組～7組 月4～5回	市内小児科の健診に来られた親子とその兄弟 離乳食の進め方やその必要性、赤ちゃんの内臓の消化吸収力が大人と同じになるまでの薄味のつけ方等、理解してもらえよう説明した。	4か月児のお母さんでは、市の離乳食教室に参加して、またもう1度離乳食の進め方の話を聞く方が多かった。 10か月児では丸飲みをしていて、次の角切りのやさい等は食べられないというケースが多く、お母さんに「お子さんの口とはどんな風に動いていますか？」と聞いても、「よく見ていないし」「カミカミ」という言葉かけすらしていないことがわかった。もう少し時間をかけて説明する必要があると思った。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	彩の国 いきがい大学 伊奈学園 栄養講座	◎		○	○	○						○	継続	その他	おおむね65歳以上の男女 いきがい大学受講生 2回 48名	伊奈の県民活動センターからの依頼で定年退職をした男性、ひとり暮らしの人(男・女)達に毎日の食生活について(バランスのある食事)はどの様にしたらよいかをお話する。 テーマ ～若さを保つ食生活～ (シニア期を健康に過ごすために) 5/17、6/23実施	男性・女性、半々ぐらいで男性は熱心に聞いておられた。 うどんの塩分量を気にしたり、みそ汁はどれぐらい(一日)とればよいかなど、具体的な質問が多く出た。高血圧、糖尿病のことを気にしている人も多い。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
団体名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	彩の国 いきがい大学(伊奈) 調理実習	○	◎	○	○	○						○	継続	その他	165名 (6回)	5月2回、6月2回、9月2回 彩の国いきがい大学伊奈学園の健康づくり科及び健康福祉科を受講している生徒を対象に「高齢者の栄養学」にそった「バランス食」の調理実習をし、試食してもらう。 授業の都合で12時開始の為、準備は午前中より始め、次の授業に間に合う様にした。	2回、3回目の人(受講)も多く、手順もスムーズに出来、バランス食の理解も良く出来、家でも作る人が増えた(男性)
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	H28年度 埼玉県米消費拡大推進連絡協議会助成事業		◎	○		○	○	○					継続	中央区	市内在住親子17名 (1回) 大人8名 子供9名	「埼玉県産米粉を使った親子クッキング」 実施日：8月24日(水)10:00～13:00 埼玉県産の米粉を使用し、 ①米粉のもちもちピザ ②とろとろブラマンジェ の2品を作りました。 米粉の特徴を紹介しながら、実際に米粉を触ってもらうなど、お子さんにも興味をもってもらえるよう、努めました。	普段、米粉はあまり使わない方がほとんどでしたが、いつものお料理に手軽に使えることを知っていただいたことにより、「どこで米粉を買えますか？」という質問もあがり、米粉に興味をもってもらえたと思います。 夏休み、親子で簡単に楽しめるメニューで喜んでもらえました。
さいたま市地域活動栄養士会 バランス食の会	消費生活セミナー 「健康に過ごすための食生活」	◎				○				○	○	○	新規	浦和区	28名 (男性7名、女性21名) 1回	「健康に過ごすための食生活」についての講話 食事バランスガイド等を使用し、バランスの良い食事とはどのような内容の食事か？ 注意したいポイントについて説明。	主食、主菜、副菜をそろえ、1日3食食べるという基本について理解していただけたと思います。
さいたま市食品衛生協会	さいたま市食品衛生協会			○		◎	○	○	○	○	○	○	継続	浦和区	年2回	浦和駅周辺に於いて食中毒防止キャンペーン実施。乗降客及び通行者を中心にパンフレットを配布。 8月・11月 年2回実施	食中毒の時期ですのでパンフレットを受け取って頂いた方は認識したと思います。
厚德幼稚園 (一般社団法人さいたま市私立幼稚園協会)	野菜の栽培、収穫、試食		◎	○		○							継続	浦和区	年長組園児 39名 年中組園児 52名 及び保育者 5名	年中組が枝豆、年長組がナス、トマト、キュウリ、ピーマン、米をプランターで栽培。 日々、子ども達と水やり、観察をし、収穫時には、ゆでたり、焼いたり、生サラダとして全園児で試食した。 5～10月まで実施。 体験を通じて、食への関心を高め、食べ物を大切にすることを学んだ。	栽培を通じて収穫するまでの大変さや食べ物に対しての感謝の気持ち、関心を子ども達を感じる事ができた。 苦手な野菜にも日々の世話を通じて愛着を感じたことよって、食べてみようという意欲の見られる子も多かったです。
市民委員 大久保悦子 (大久保料理教室)	大久保料理教室		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	浦和区	100名(1か月に15回) 参加者は月1回参加 1クラス8名	毎月、和洋中華、薬膳料理を月毎に変えて実施している。男性クラスも1組あり、意欲的に取り組んでいる。身近な旬の食材を使い、帰ってすぐに作れるような家庭料理に重きを置いている。熟年世代の方が多いので、塩分を控えたバランスのよい食事作りができるように指導していきたい。 市内の公民館、コミュニティセンターからの依頼も多く、年代もさまざまだが、ニーズに合った指導をしていきたい。	とにかく皆さん、1か月に1回の教室が楽しいようで、ほとんど欠席者はいない。家でもすぐに取りかかれるような献立を工夫しているので、翌月作ってみたいと報告してくれるので、私自身もやりがいを持って取り組めた。年齢層にかなり幅があるので、その折々のニーズに合った献立も必要と考えている。
市民委員 前山雄次 (特定非営利活動法人日本成人病予防協会)	バナナうんちで元気な子！生活リズムを整えよう	◎	◎			○	◎						継続	その他	小学生(主に低学年)を対象 東京都を中心に全国で62回実施	「うんち」をテーマに、便の種類、食べ物の選び方、消化・吸収・代謝・排泄のしくみなどを理解するためのテキストを作成し、エプロンシアターやうんちダンスを取り入れ、「早寝早起き朝ごはん」習慣づくりの大切さを伝えている。生活リズムや排便の様子を記録する「うんちクリニック」も実施。	印象に残りやすい授業内容になるように工夫していることもあり、健康の大切さを意識するようになった児童が増加し、また授業後は多くの点で生活習慣の改善が見られた。 全国に「うんちブーム」を広めていくために、指導者養成講習会を各地で更に開催する。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

2 さいたま市食育関係部局の食育取組状況

- ・ 食品・医薬品安全課
- ・ 青少年育成課
- ・ 地球温暖化対策課 ※
- ・ 10区保健センター協力事業
- ・ 北区保健センター
- ・ 中央区保健センター
- ・ 南区保健センター
- ・ 健康教育課（教育委員会）
- ・ 生涯学習総合センター（教育委員会）
- ・ 地域保健支援課
- ・ 保育課
- ・ 資源循環政策課
- ・ 保健センター共通事業
- ・ 大宮区保健センター
- ・ 桜区保健センター
- ・ 緑区保健センター
- ・ 生涯学習振興課（教育委員会）
- ・ 健康増進課
- ・ 子育て支援政策課
- ・ 環境総務課 ※
- ・ 農業政策課
- ・ 西区保健センター
- ・ 見沼区保健センター
- ・ 浦和区保健センター
- ・ 岩槻区保健センター

※平成29年度より環境総務課と地球温暖化対策課を統合し、「環境創造政策課」に課名変更

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check							
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」	三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続		実施場所	参加者数(実施回数)
食品・医薬品安全課	食の安全フォーラムの開催				○			○	○	○	○	○	○	継続	複数区	第1回:83名 第2回:85名 2回	フォーラムを2回開催した。内容は食に関する情報の講演・意見交換等。 第1回は8/31にプラザノースにて開催した。テーマは「食のリスクを考える～情報のウソ・ホントを見抜く力～」。 第2回は2/11にプラザノースにて開催した。テーマは「HACCPで安全な食品を作る」。	案内チラシの配布場所を拡大した。 今後も入場者数を増やすためのPR方法やそのためのテーマの設定等を検討する。
食品・医薬品安全課	食の安全委員会の開催				○			○	○	○	○	○	○	継続	その他	委員数13人 4回	食の安全・安心を確保するため、広く市民の意見・提言を施策に反映し、各界代表者の意見交換を目的として年4回(8/3、10/19、12/19、3/22)開催した。	食の安全確保対策について、意見・提言をいただき、施策に反映させた。
食品・医薬品安全課	食の安全対策会議の開催				○			○	○	○	○	○	○	継続	その他	構成員10人 3回	食の安全に関し、正確に必要な情報の提供と知識の普及、組織横断的な連携及び調整を図ることを目的に、関係する庁内の課所長等で組織する「食の安全対策会議」を年3回(7/26、12/8(メール開催)、2/24(メール開催))開催した。 次年度における食の安全基本方針アクションプラン及び食品衛生監視指導計画の検討を行った。	アクションプラン及び食品衛生監視指導計画の案を提示し、庁内関係課所の意見を伺い、反映させた。 組織横断的な会議として、今後も引き続き開催する。
食品・医薬品安全課	次年度食品衛生監視指導計画の策定				○			○	○	○	○	○	○	継続	その他		食品衛生法に基づき、平成29年度の総合的な食の安全確保に向けた食品の監視・指導・検査計画を策定し、ホームページ等で公表した。	庁内関係課と意見交換を行い、より実際の状況に即した計画となった。 平成28年度の結果については平成29年6月末までに取りまとめ、公表予定。
食品・医薬品安全課	次年度食の安全基本方針アクションプランの策定				○			○	○	○	○	○	○	継続	その他		目標値の書き方について、食の安全対策会議等で関係各課と意見交換を行い、内容の改正を行った。	具体的な目標が提示され、より分かりやすいプランとなった。 平成28年度の結果については平成29年7月末までに取りまとめ、公表予定。
食品・医薬品安全課	食育webによる市民への情報提供						○	○	○	○	○	○	○	継続	その他		食育・健康ポータルサイト「食育ナビ」のリンク先の修正等の見直しを行った。	市ホームページ(食品衛生のページ)との整理を図りつつ、内容をさらに充実させていく必要がある。
食品・医薬品安全課	食肉等の生食等による食中毒予防対策の実施				○			○	○	○	○	○	○	継続	その他		細菌性食中毒の予防対策として、【食肉及び食鳥肉の生食及び加熱不足を原因とする食中毒予防対策強化期間】を設定(6/20～7/1)し、以下のこと等を実施した。 ・街頭キャンペーンを行い、リーフレットと啓発品(1000部)を配布。(6/21) ・小中学生及びその保護者へリーフレット(115,440枚)を配布。 ・保健所食品衛生課により、焼肉屋等の飲食店や食肉販売施設等の監視を行った。	街頭キャンペーンの開催場所についてシティセールス部に相談し、市民がよく利用する場所に変更した。今後は開催時期について検討する。 市民への一層の啓発活動の推進が必要。
食品・医薬品安全課	ノロウイルスによる食中毒予防対策の実施				○			○	○	○	○	○	○	継続	その他		【冬の食の安全注意報】とし、ノロウイルスに起因する食中毒、感染症の好発時を前に以下のことを実施した。 ・街頭キャンペーンを行い、リーフレットと啓発品(500部)を配布した(11/9)。 ・社会福祉施設等へリーフレット(3,956枚)を配布した。 ・市内の大量調理施設(234施設)へリーフレットを配布した。 ・保育所職員を対象とするノロウイルス対策研修会を開催した。(11/24)	キャンペーンや研修会の開催時期及びリーフレットの配布時期の検討が必要。 市民への一層の啓発活動の推進が必要。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ										平成28年度	
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化														
食品・医薬品安全課	食の安全・安心市民講習会の実施			○			○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	24名 全7回	食に対する「確かな目を持つ市民」を養成することを目的に、5/20、6/17、8/1、9/20、12/14、3/6、3/15の全7回の講習会を開催した。食品衛生に関する市の取り組みや農薬の安全性、食品添加物、食品表示、リスクコミュニケーションなどの講習を行った。24名中、規定の回数を受講した参加者17名に対し修了証を交付した。	受講に意欲のある受講生の確保やそのための受講生の募集方法などの検討及び出席率、修了率の向上方法の検討が必要。
食品・医薬品安全課	サイエンスカフェの実施			○			○	○	○	○	○	○	継続	複数区	第1回:29名 第2回:47名 2回	第1回:4/12にさいたま市宇宙劇場にて開催した。テーマは「発酵・腐敗・カビ毒～食とカビの不思議～」。第2回:12/16に市民会館うらわにて開催した。テーマは「食の安全を考える～食品添加物は危険?～」。	サイエンスカフェという形式に不慣れた市民が多いため、意見交換の仕方や会の進め方、会場の雰囲気作りを事務局が手助けする必要がある。	
食品・医薬品安全課	食の安全市民ネットワーク推進員			○			○	○	○	○	○	○	継続	その他	40人 3回	平成27年度の食の安全・安心市民講習会を受講し修了した方を、地域と行政を結ぶ役割を担い、食の安全情報を伝達する推進員として委嘱した。年間3回(5/13、10/25、3/16)ネットワーク会議を開催し、各自の食の安全への取り組み内容や、日頃の購買活動の中で食の安全について気になっている点などを意見交換した。	活動報告や会議への出席について、推進員間で活動状況に差が出ている。出席率の向上方法の検討が必要。	
地域保健支援課	・給食施設における栄養成分表示の推進 ・栄養関係団体育成事業			○			○	○	○	○	○	○	継続	全区	【特定・小規模給食施設等施設数】 集計中 【さいたま市保健所管内給食研究会】 54施設 (H29.3現在)	・特定、小規模給食施設について、栄養管理報告書により栄養成分表示の有無について、毎年6月の実績をもとに確認を行った。 ・特定・小規模給食施設の巡回指導や、栄養関係団体に対する活動支援を行った。 ・特定・小規模給食施設等に従事する栄養士等に対する研修会を開催した。(4回)	・栄養管理報告書によって栄養成分表示の有無については把握しているが、その現状や活用方法について、十分な把握が出来ていない。	
地域保健支援課	健康づくり協力店(栄養成分表示店)における栄養成分表示の推進	○		○			○	○	○	○	○	○	継続	全区	【指定店舗数】 30店舗 (H29.3.6現在)	・年度初めに全店舗を訪問し、店舗状況の確認と要綱を改正する事、要綱改正に伴い指定要件が変更することを周知した。 ・要綱の改正を行った。	食品表示法施行に伴い、店舗の状況確認を行い、指定要件の見直しをしたが、店舗数の拡大が出来ていない。閉店で指定解除となった店舗もあった。	
地域保健支援課	市民団体の支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	【食改】 600人 (会員数) (H27実績、 H28.4月現在) 【愛育会】 395人 (会員数) (H27実績、 H28.4月現在)	・さいたま市食生活改善推進員協議会事務局、育成事業(10区合同リーダー研修会)を年3回実施。 「歯と口の健康」「生活習慣病予防の食事」「休養・こころの健康づくり」 ・さいたま市保健愛育会事務局 「小学生食育教室」「生活習慣病予防教室」等	食生活改善推進員協議会の育成支援については、時宜にあったテーマ等について調整を行う。保健愛育会については、地区からの依頼で事業を実施している。	
子育て支援政策課	食育に関する情報の配布、掲示の協力					○	○						継続	全区	—	離乳食や幼児向けの食育に関する冊子やチラシの配布、ポスター等の掲示の依頼があれば、0～2歳児までの親子が利用する「単独型子育て支援センター」や「のびのびルーム」で配布・掲示協力した。	来場者に関心を持ってもらえるよう、引き続き配布・掲示をしていきたい。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check										
担当課所名	事業名	計画の目標					平成28年度										成果・課題等					
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)									
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化																
子育て支援政策課	単独型子育て支援センターでの食育に関する事業					○	○						継続	全区	—	・単独型子育て支援センター10か所すべてで、育児相談(食事・栄養に関する相談を含む)を実施した。 ・離乳食講習会を実施した。 ・食育に関する絵本・パンフレット・レシピ集・パネルを展示・掲示・配布した。 ・おいもほり等、食への関心を高める体験をする機会を設けた。	各取り組みを通して、子育てをする方に食への関心を持ってもらうことができた。					
青少年育成課	さるはなキャンプフェスタ・親子のつどい	○			○		○	○	○				継続	見沼区	101名	対象:市内小学生とその保護者 実施日:平成28年10月23日(日) 場所:猿花キャンプ場(見沼区南中野) 内容:野外炊飯、レクリエーション	みんなでいっしょにご飯を作り、いっしょに食べることの楽しさを知ってもらった。					
青少年育成課	【植竹児童センター】 「栄養士による離乳食講話」	○	○	○		◎	○			○			新規	北区	乳児21名 保護者19名	対象:0才児とその保護者 実施日:10月19日(水) 内容:保健センターの栄養士さんを講師とし、離乳食についてのお話、アンケート回答、悩み相談を行う。	事前にアンケートを取り、回答をしながら離乳食について話をしていた。そのため、静かに集中して聞いていた。その後の個別相談でも、質問をしていた方もいた。					
青少年育成課	【植水児童センター】 子育て支援事業 「すくすく教室」	○	◎			◎	○	○	○				継続	西区	小学生18名 保護者3名	対象:小学生とその保護者 実施日:平成28年8月8日(月) 目的:地域に住む児童が健康でのびのび育つよう、講話や調理体験を通し、楽しみながら食育を学べる子育て支援を行う。 内容:植水地区社会福祉協議会・植水児童センター共催事業。保健センター管理栄養士、食生活改善委員の方々に講師に季節の食材を使った料理を作る。	おにぎらず、カボチャのサラダ、小松菜のみそ汁、フルーツヨーグルトを作り皆で楽しく食べました。また、栄養講話を調理前に行い「食事のバランスガイド」「朝ごはんの大切さ」を学び、「食育」について興味・関心を持つことに繋がりました。					
青少年育成課	【植水児童センター】 ハイハイサロン 「離乳食講座」	○	◎			◎	○		○	○			継続	西区	乳幼児10名 保護者9名	対象:0歳児とその保護者 実施日:平成29年2月14日(火) 目的:離乳食についての知識を深める。 内容:保健センター管理栄養士による離乳食のメニュー・調理のポイントの紹介。保護者の離乳食に関する悩み、疑問を解決する。	講座20分間、月齢に合わせたポイントの説明のあと、質問タイム20分間。1つ1つの質問・回答に、皆さんうなずきながら、しっかり聞いてくださっていた。					
青少年育成課	【馬宮児童センター】 離乳食講座	○	◎	○		◎	○		○	○			継続	西区	乳児16名 保護者16名	対象:乳児とその保護者 実施日:平成28年10月24日(月) 目的:離乳食についての専門的な知識を深める。 内容:保健センターの管理栄養士による離乳食についての講話や個別相談	事前のアンケートも含め、月齢を4期に分け、離乳食の進め方のポイントやメニューの紹介をしてくれた。資料にそっての説明がとても分かりやすかった。参加者の半分が個別の相談を希望された。					
青少年育成課	【馬宮児童センター】 野菜やお米を育てて収穫しよう	◎	○	○		◎	○	○	○				継続	西区	小学生33名	対象:小学生以上 実施日:平成28年6月～9月 目的:食物の栽培、収穫体験をする。 内容:児童クラブの児童を中心に、プランターで野菜の栽培、収穫を行った。	水をあげる時に、だんだんと大きくなっていく野菜を見て、世話をする楽しみや喜びを味わっていた。野菜が嫌いな児童も、自分で収穫すると喜んで持ち帰っていた。また、親子でどんな料理にしようかという会話が多くなった。					
青少年育成課	【馬宮児童センター】 食育講座	○	◎	○		◎	○	○	○				継続	西区	小学生9名 保護者5名	対象:小学生と保護者 実施日:平成28年8月23日(火) 目的:食育についての知識を深め、実践する。 場所:馬宮公民館 内容:食育講話と保健センター管理栄養士、食生活改善推進協議会の方を講師に調理を実践する。	食育についての講話後、季節の食材を使って、親子で調理を実践してもらった。親子でまた、参加者同士で、コミュニケーションを取り合いながら、楽しく取り組むことができました。					

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度				成果・課題等		
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)					
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												
青少年育成課	【宮原児童センター】手打ちうどん作り	○					○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	幼児2名 小学生13名 保護者11名	対象者:小学生以上と保護者 実施日:平成28年5月21日(土) 場所:宮原児童センター 内容:親子で協力し、手打ちうどんを作る。	親子でふれあい、簡単に作れると参加者から好評だった。
青少年育成課	【宮原児童センター】お月見会	○					○	○	○	○	○	○	継続	北区	小学生9名 中学生1名 高齢者6名	対象者:小学生以上と高齢者 実施日:平成28年9月11日(日) 場所:宮原公民館 内容:お団子作りと会食。	シニア世代からの食文化継承。楽しみながら食に対する知識を深め、参加者相互の親睦をはかった。今回は調理場の整備されている公民館を借りて行った。	
青少年育成課	【宮原児童センター】おにぎりとおみそ汁を作ろう	○					○	○	○	○	○	○	継続	北区	小学生17名 中学生2名 高齢者6名	対象者:小学生以上と高齢者 実施日:平成28年11月20日(日) 場所:宮原児童センター 内容:みんなで協力しておにぎりとおみそ汁を作り、会食する。	高齢者が子供に調理の仕方を教える中で、参加者相互の親睦をはかった。	
青少年育成課	【宮原児童センター】おたのしみ会	○					○	○	○	○	○	○	新規	北区	小学生7名 高齢者5名	対象者:小学生以上と高齢者 実施日:平成28年12月22日(木) 場所:宮原児童センター 内容:温かいスープを作り、おたのしみ会参加者に振る舞う。	高齢者と協力し、子供たちが調理をすることで世代間交流の促進につながった。	
青少年育成課	【宮原児童センター】手打ちうどん作り	○					○	○	○	○	○	○	継続	北区	乳幼児5名 小学生11名 保護者11名	対象者:小学生以上とその保護者 実施日:平成29年1月29日(日) 場所:宮原児童センター 内容:親子で協力し、手打ちうどんを作る。	参加者からは楽しかったとの声が多くあり、また保護者同士の交流も見られた。	
青少年育成課	【宮原児童センター】バレンタインアイシング	○					○	○	○	○	○	○	継続	北区	小学生16名	対象者:小学生以上 実施日:平成29年2月5日(日) 場所:宮原児童センター 内容:クッキーにアイシングをする。	講師を招き、本格的なアイシングの仕方を教わった。難しかったけど楽しかったと参加者から声があがった。	
青少年育成課	【本郷児童センター】じゃがいもほり	○		○			○	○	○	○	○	○	継続	北区	幼児33名 児童16名 保護者44名	対象:幼児・児童とその保護者、高齢者 実施日:平成28年6月25日(土) 目的:親子でじゃがいもの収穫体験を共有し、コミュニケーションを深め、世代交流を行うとともに、食への関心を持ってもらう。また、地域で栽培されている野菜の事を知り、愛着を感じてもらうことを目的としている。 内容:地域の自治会長の畑にて、地域の方々同士コミュニケーションを図りながら楽しく親子でじゃがいもの収穫をおこなった。	多くの親子さんに参加していただくことが出来、良かったと思う。また、毎年実施を楽しみにしてくださっている方も多く、とてもニーズの高い事業である。	
青少年育成課	【本郷児童センター】乳幼児向け食育講座	○		○			○	○	○	○	○	○	新規	北区	保護者5名 乳幼児5名	対象:0歳の乳幼児とその保護者 実施日:平成29年2月20日(月) 目的:児童センターを利用されている乳幼児の保護者に対して保健センター栄養士から離乳食など『食』に関する基本的な事項について講座を行っていただき、参加者への適切な指導・支援をとおして、食生活の大切さについて理解を深めていただくことを目的とする。	参加人数は少なかったが、意識の高い方が多く、質問事項なども多く挙手があがった。専門的な話が聞け、とても意義のある講座だった。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check							
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等					
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)			
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進		
青少年育成課	【三橋児童センター】 乳幼児食育講座	○	○	○			○						○	○	○	継続	大宮区	乳幼児12名 保護者11名	対象者：離乳食期の乳児とその保護者 実施日：平成28年10月20日（木） 場 所：三橋児童センター 目 的：離乳食期の乳児をもつ母親を対象とし、栄養士から専門的に学ぶ場を設け、離乳食についての不安や悩みの解消を図るとともに、楽しく子育てできるようサポートする。 内 容：栄養士さんによる講話 「離乳食講座」	事前に保護者に向けて、離乳食についてどのような疑問や悩みを抱えているかを聞き取りし、当日の講話の中で栄養士さんに答えていただいた。栄養士さんがプラスチックの食品サンプルを示してくださったり、質問に分かりやすく丁寧に答えてくださったので、保護者の皆さんによくご理解いただけた様子であった。
青少年育成課	【天沼児童センター】 栄養士講話	○	○	○			○						○			新規	大宮区	幼児12名 保護者11名 (1回)	対象：2～4歳の幼児とその保護者 実施日：平成28年6月17日（金） 場所：天沼児童センター 内容：幼児をもつ保護者に向けた食事に関する保健センター栄養士による講話 講話テーマ：食事のしつけ（手洗い・うがい・あいさつ等）、規則正しい生活リズム、バランスのよい食事・好き嫌い等	講話に熱心に耳をかたむけている方が多く、栄養士に個別に質問している方もいて、利用者様に専門的な情報提供を行うことができた。
青少年育成課	【天沼児童センター】 やきいもパーティ		○	○	○	○	○	○	○	○	○					新規	大宮区	幼児49名 小学生36名 保護者（高齢者含む）56名 (1回)	対象：0～18歳未満の児童とその保護者、60歳以上の方 実施日：平成29年1月14日（土） 場所：天沼児童センター 内容：地域の方々の交流の場となるようみんなで一緒にやきいもを作って食べる、火の扱い方を学ぶ。	NPO法人ハンズオン！埼玉&おとうさんのヤキイモタイム実行委員会のキャンペーンに応募して実施した。「おいしかった」「いい体験ができた」「またやりたい」といった声が多く、とても好評だった。事前に地域の方々へチラシでお知らせしておいたことで、煙による苦情等はなく、多くの方に参加していただけた。
青少年育成課	【片柳児童センター】 クッキングクラブ												◎	○		継続	見沼区	年6回実施 小学生60名	対象：小学生 実施日：平成28年5月21日（土）、6月18日（土）、8月20日（土）、10月15日（土）、12月17日（土）、平成29年2月18日（土） 場所：片柳児童センター 目的：クッキングを通して、食に対して関心を持てる機会をする。 内容：簡単なお菓子作り（お好み焼き、焼きそば、アイシングクッキー、ポップコーン等）	初めて包丁で果物を切ったり、卵を焼いたり、火を通すことで材料が固まっていく姿など、参加児童にとって初めて体験することの多いイベントとなっている。
青少年育成課	【片柳児童センター】 お茶体験												◎	○		継続	見沼区	年2回実施 小学生20名	対象：小学生 実施日：平成28年8月22日（月） 平成29年1月4日（水） 場所：片柳児童センター 目的：子どもの体験活動の普及として、日本文化である茶道を楽しむ機会を作る。また、茶道を通して礼儀作法を知る機会とする。 内容：ボランティア講師による茶道体験	実際にお抹茶をたてたり、和菓子を食べたり、参加児童は楽しんでいる。他にも礼儀作法としてふすまの開け方や歩き方なども体験しながら学べ、何度も参加する児童も多い。
青少年育成課	【片柳児童センター】 離乳食講座						◎	○						○		継続	見沼区	乳児7名 保護者6名	対象：0歳児とその保護者 実施日：平成28年11月15日（火） 場所：片柳児童センター 目的：保健センターより講師派遣を依頼し、離乳食について専門的な話を聞く機会とする。 内容：食事方法や月齢ごとの離乳食について保健センターの管理栄養士より保護者向けに話をする。保護者の個々の質問、相談に栄養士が答える。	熱心に栄養士の話を聞く保護者の姿があり、終了後も個別に質問や相談をする保護者も少なくなかった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
担当課所名	事業名	計画の目標				ライフステージ				平成28年度			成果・課題等				
		5つの「食べる」 三食	い っ し よ	確 かな 目 標	ま ご こ ろ 食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期		新規 /継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)
青少年育成課	【片柳児童センター】 ディキャンプ	◎			◎	○											
青少年育成課	【春野児童センター】 おかしなクラブ	◎			○	○						継続	見沼区	小学生48名 保護者1名	対象:小学生 実施日:平成28年5月14日(土) 平成28年11月26日(土) 平成28年12月10日(土) 平成29年2月4日(土) 場所:春野児童センター 内容:簡単なお菓子作り	成果:普段利用しない児童もセンターに足を運ぶ機会となった。異年齢の子どもたちが、お菓子作りをとおして交流することができた。 課題:調理設備が不十分であった。簡単に安全に作れる献立(お菓子)の検討。	
青少年育成課	【春野児童センター】 子ども公民館	◎			○	○						継続	見沼区	小学生25名 保護者9名	対象:小学生 実施日:平成28年5月14日(土) 平成28年7月2日(土) (*今年度は、9月~3月まで公民館の改修工事が入るため2回実施) 場所:春岡公民館 内容:うどん・カップマフィンの調理	成果:公民館共催のため専用の調理室を使用して行うことが出来た。小学生のみならず親子行事もあり対象・内容も幅広く行うことが出来た。 課題:献立の検討と広報	
青少年育成課	【与野本町・大戸・向原 児童センター合同事業】 おいもほりにいこう!				○	○	◎	○				継続	中央区	90組	対象:幼児とその保護者 実施日:平成28年10月20日(木) 目的:幼児とその保護者に対して、自然に親しむ場を提供するとともに、収穫の喜びを体験する機会とし、食育事業の一環とする。 内容:地域の農家のさつまいも畑で、親子でさつまいも3株を掘り、収穫する。	いも掘りを通し、土に触れ、とれた芋の大きさに一喜一憂しながら、親子でのコミュニケーションを楽しんでいた。特に保護者の満足度が高い印象だった。後日、様々な調理法や食べた感想の報告を受け、行事をきっかけに、家族で食に関しての会話が増えたのではないかと感じた。	
青少年育成課	【与野本町児童センター】 「離乳食講座」	○			○	◎	○					継続	中央区	①親子28組 ②親子24組	対象:乳幼児とその保護者 実施日:①平成28年5月18日(水) ②平成29年3月8日(水) 目的:離乳食を開始する予定の乳児の保護者及び与え方に悩んでいる保護者の方に講話、相談の機会を提供する。 内容:栄養士による離乳食についての講話	事前に保護者の方の質問を栄養士さんに伝えることで、離乳食の悩みなどについての的確な回答を得ることができ、子育ての不安などを軽減できたと喜んでいました。また、実際の離乳食づくりと組み合わせた講座ができれば分かり易さが増すと感じた。	
青少年育成課	【向原児童センター】 親子であそぼう0才「食育講話」				○	◎	○						中央区	乳幼児2名 保護者2名	対象:0歳児の乳児の保護者 実施日:平成28年11月11日(金) 目的:離乳食について知り、理解を深める。 内容:中央区保健センターの管理栄養士から主に離乳食のすすめ方について話を聴き、質問タイムも設定し、悩みに対する回答を全員で共有できるようにする。	親子であそぼう(0才)のセンター事業と組み合わせで実施し、参加しやすいようにした。雨天の為参加者は少なかったが、一人ひとりから時間をかけて離乳食について話を聞くことができ、その話の内容を共有して、困っているところや疑問点についてアドバイス等もいただいた。	
青少年育成課	【与野本町・向原・大戸・大久保東児童センター】 中央区・桜区合同 中高生料理教室	◎										継続	中央区	中高生7名	対象:さいたま市内中高生 実施日:平成29年3月5日(土) 目的:中高生世代は食材をコンビニ等で購入することが多いが、冷蔵庫にあるような食材で簡単にできるものを作り、孤食ではなくみんなと一緒に会食する楽しさを味わう。 内容:手軽でおいしい昼ごはん&お菓子作り	昨年度から中央区・桜区合同事業として始めた。簡単な食事、デザート、お菓子を友達と作り、みんなで食事を囲み、自分たちが作ったものを一緒に美味しく食べる時間を楽しんだ。次回の内容についても中高生の意見をきくことができた。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	平成28年度 取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等			
		5つの「食べる」 三食	い っ しょ	確 かな 目	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期						壮 年 期	高 齢 期	
青少年育成課	【大戸児童センター】 ハイハイサロン「離乳食講座」	○				◎	○						○	○	継続	中央区	①親子28組 ②親子22組	対象:乳児の保護者 実施日:①平成28年5月19日(木)②平成29年2月16日(木)の計2回 場所:大戸児童センター 目的:栄養士の講話を招き、乳児の食についての理解を深め、不安を解消することを目的とする。 内容:栄養士による講話や個別相談	1時間のプログラムの配分は、初期・中期・完了期と分けて講話。その後個別相談となっていた。保護者は概ね満足していた。個別相談希望者が多く、予定時間を延長した。
青少年育成課	【浦和別所児童センター】 「食育講座」			○			○								継続	南区	①乳幼児17名 保護者18名 ②乳幼児12名 保護者12名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:①平成28年6月27日(月) ②平成28年12月5日(月) 目的:食育についての理解を深める。 内容:第1部 南区保健センターの栄養士から、離乳食について、食中毒や熱中症予防等の講義。第2部 栄養士と保健師による個別相談。	平成28年度も、南区保健センターの協力により、合計2回の食育講座を開催した。昨年度までは、離乳食講座を開催していたが、幼児食についての講座を要望する声が多くあり、今年度は、食育講座として対象を広げて開催した。個別相談の希望が多く、個々の疑問や悩みについて直接栄養士と保健師に相談できたことは良かったのではないだろうか。
青少年育成課	【文蔵児童センター】 楽しくつくろう～クッキング～	○	○			◎	○								継続	南区	小学生82名 保護者14名	対象:小学生 実施日:①平成28年5月28日(土)②平成28年6月11日(土)③平成28年7月9日(土)④平成28年11月26日(土)⑤平成28年12月10日(土)⑥平成29年2月25日(土) 目的:簡単な調理や共に食べることによって食の楽しさ、大切さを知る。 内容:楽しくクッキングをしながら食べる。	小学生向けの簡単クッキングを通し楽しい食育講座を実施。小学生には楽しく、美味しく楽しめるとあって人気の事業であった。
青少年育成課	【文蔵児童センター】 食育講座	○	○			◎	○	○	○	○					継続	南区	乳幼児51名 保護者49名	対象:乳幼児親子 実施日:①平成28年12月19日(金)②平成29年2月16日(木) 目的:乳幼児期の食について理解を深める。 内容:南区保健センターの栄養士による食育講座と食に関する相談役を行う。また個別相談も行う。	栄養士による食育講座として実施。2回目は0歳児事業内で離乳食を中心の講話で実施した。保護者からも質問が積極的に出され、参加者同士で栄養士からの回答を共有できた。
青少年育成課	【岩槻児童センター】 食育講座	○	○			◎	○	○							新規	岩槻区	①小学生13名 ②小学生9名 ③小学生7名 ④小学生9名	対象:小学生4～6年 実施日:不定土曜日①平成28年5月21日②平成28年9月10日③平成28年11月12日④平成29年1月21日 場所:コミュニティセンターいわつき 内容:楽しくクッキングをしながら子ども同士で交流を図る。自分たちで作ったものを、味わって食べる。	クッキングの内容なのか、学校や習い事等で忙しいからなのか、参加率はあまり伸びなかったが、参加した児童は他校との交流を図りながらクッキングが出来た。毎回参加してくれた児童もいて、人数が定着していけばクラブ化を目指したい。
青少年育成課	【岩槻児童センター】 土曜クッキング	○	○			◎	○	○							新規	岩槻区	小学生76名	対象:小学生 実施日:①平成28年4月9日(土)②平成28年6月18日(土)③平成28年7月26日(火)27日(水)④平成29年2月4日(土)⑤平成29年2月18日(土) 場所:岩槻児童センター 内容:季節のイベントに合わせたクッキングや楽しく作って食べられる内容を考え実施。	季節のイベントに合わせた簡単クッキングは大人気。毎年楽しみにしている児童もいる。
青少年育成課	【仲本児童センター】 仲本ファーム・プチトマト/ジャガイモ栽培	○				◎	○	○	○	○	○				継続	浦和区	利用者全般	対象:利用者全般 実施日:平成28年5月～7月中旬 場所:仲本児童センター 目的:野菜が育つ過程を見守り、収穫した野菜を食べることで食べ物に対する関心と理解を深める。 内容:プランターに苗を植え、成長を見守る中で自然の恵みを実感するとともに、収穫し味わうことで野菜に親しみを持つ。	野菜が育つ過程を日々見守り、収穫して味わった。ジャガイモは小学生が土中から掘り起こし、実る様子を観察した。保護者の方の話によると、成長する過程を見守ったことで、食べてみたいという気持ちが増したようだった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check											
担当課所名	事業名	計画の目標					平成28年度										成果・課題等						
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)										
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化																	
青少年育成課	【仲本児童センター】食育あそび	○	○			○◎	○						○	継続	浦和区	乳幼児46人 保護者46人	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成28年6月19日(日)・23(木) 場所:仲本児童センター 目的:食べることの楽しさを伝え、食育に対して関心を持っていただく。 内容:親子でお弁当づくり遊びを通じ、おいしい食事をバランスよく食べる疑似体験を行った。	いろいろな食材を食べることで、元気な体をつくれることを、遊びを通じて体験できた。 また、食育月間や食育の日を紹介し、食育に関する情報を提供した。					
青少年育成課	【仲本児童センター】栄養士・保健師による食育の講話	○	○	○		○◎	○						○	継続	浦和区	乳幼児3名 保護者3名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成28年11月24日(木) 場所:仲本児童センター 目的:食についての専門家からの情報提供 内容:保護者の質問に答える形での情報提供を行う。	雨天で利用者は少なかったものの、保護者の方が抱えている食に対する悩みにたいし、専門家に解りやすく答えていただいた。普段の食生活の参考になる内容だった。					
青少年育成課	【仲本児童センター】学生ボランティア食育のおはなし	○	○			◎	○						○	継続	浦和区	乳幼児8名 保護者8名	対象:乳幼児とその保護者 実施日:平成29年3月21日(火) 場所:仲本児童センター 内容:さいたま市健康増進課「食育を实践しようプロジェクト」の一環。学生ボランティアによる食育あそび	実際の野菜や果物を使用したゲームを通じ、食物に対する関心や理解を楽しみながら深めることができた。					
青少年育成課	【尾間木児童センター】べっこうあめづくり	○	○			◎	○							新規	緑区	①小学生87名 ②小学生82名 ③小学生23名	対象:小学生 実施日:①平成28年9月3日(土)、②平成28年9月10日(土)、③平成29年2月18日(土) 場所:尾間木児童センター 内容:ホットプレートを使用。砂糖水をつくりアルミカップに流す。ホットプレートで沸騰させ、黄金色になったら冷やし固めてでき上がり。	作る工程は簡単ですが、砂糖水から色が変わっていく変化なども楽しみながらできました。					
青少年育成課	【尾間木児童センター】ポップコーンづくり	○	○			◎	○							新規	緑区	①小学生87名 ②小学生82名	対象:小学生 実施日:①平成28年10月29日(土)、②平成28年11月5日(土) 場所:尾間木児童センター 内容:ホットプレートを熱しコーンを敷く。ふたをしてコーンが弾ける様子を見ながら出来上がるのを待つ。コーンが白く膨らんだら塩を振ってできあがり。	コーンの変化する様子がよくわかり、ポップコーンのできる過程を目で見るのが楽しく参加することができました。					
保育課	保育園での食育	○	○	○	○	○	○							継続	全区	103事例	対象:公立保育園へ通う児童、その保護者 場所:各公立保育園 内容:公立保育園が食育年間計画を作成し、保育士等が実施した食育が61事例。保育課の栄養士が公立保育園に出向いて実施した食育が42事例(園児向けの食育が38事例、保護者向けの食育が4事例)。	栄養士が園を訪問し食育を実施するだけでなく、各園の保育士が日々の生活の中で食育活動を継続しているため、食育が園での生活の一環となっている。 今年度も引き続き保護者向けの食育を実施できたので、来年度も継続していきたい。					
保育課	食だよりの発行	○	○	○	○	○	○							継続	全区	5回/年	対象:公立保育園の保護者、食育ナビの閲覧者 実施:年5回発行 場所:公立保育園へ通う児童の保護者へ配布、食育ナビ上へ掲載 内容:季節ごとの食に関する情報発信、衛生・食物アレルギーについての情報発信等	栄養士から公立保育園の保護者への情報発信ツールとして活用している。食育ナビへ掲載することでより多くの人へ発信することができた。 栄養士から伝えたい内容だけでなく、保護者や読者が必要としている情報を把握し発信していくことが課題である。					
保育課	食育通信の発行	○	○	○	○	○	○										平成28年度は未実施						

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do					Check											
担当課所名	事業名	計画の目標					平成28年度																
		5つの「食べる」 三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等					
保育課	公立保育園併設型子育て支援センター(4園)および子育て談話室(1園)での食育	○	○	○		○	○						○	○	○	○	○	○	継続	複数区	14事例	対象:公立保育園併設型支援センター、公立保育園子育て談話室の利用者 実施:1施設2~6事業程度/年 場所:公立保育園併設型支援センター(日進保育園、大砂土保育園、与野本町保育園、西町保育園)、公立保育園子育て談話室(大谷場保育園) 内容:乳幼児期の食生活についての講話、個別相談等	子育て支援センターと子育て談話室を利用する児童の保護者へ情報を伝えることができた。個別相談の時間を設ける事で保護者が落ち着いて相談できる場の提供ができた。 今年度は栄養相談を各施設2回以上実施できたので、来年度も継続していきたい。
保育課	食育なびにて保育施設における食育活動の発信	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○			継続	全区	18事例	対象:市内の保育施設、食育なびの閲覧者 実施:年18事例 場所:食育なび上 内容:市内の保育施設で行っている食育の取組、食物アレルギー研修の紹介	食育なびへ掲載することでより多くの人へ発信することができた。 今後も継続的に実施していきたい。
環境総務課 ※平成29年度より、環境創造政策課	さいたま市環境フォーラム				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	中央区	展示参加団体: 23団体 スタンプラリー参加者: 1,071人 その他見学者: 10,000人	市民、事業者、学校、行政などがそれぞれの立場で行っている環境保全活動についての発表を通じ、お互いの情報交換と交流の場、また、多くの方々に環境に関心を持っていただくための環境教育・学習の場を創出することを目的に実施している、市内では最大級の環境イベントです。 環境への配慮とあわせ食育についても広く啓発を行いました。 開催日 10月7日(金)・8日(土) 会場 さいたま新都心駅東西自由通路	イベント会場内に設置した「さいたま市PRブース」にて、環境関連のパンフレットなどとあわせ、食育のミニのぼり旗やガイド等を設置し、食育についても広く啓発しました。
地球温暖化対策課 ※平成29年度より、環境創造政策課	エコライフDAY				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		継続	その他	夏 17,432人 冬 22,064人	夏と冬の年2回、ある1日を省エネ・省資源など環境に配慮して過ごし、その成果を二酸化炭素の排出削減量で把握する取組であり、環境配慮のきっかけ作りが目的です。取組項目には、「食べ残しをしない」「近くの産地の食材を買う」といった、食育推進に関連する内容が含まれています。 市立小中学校の児童・生徒、市職員やその家族などが取り組みました。 取組期間 夏 6月~9月 冬 12月~3月	環境に配慮していただく中で、食育の推進についても取り組んでもらうことができた。
資源循環政策課	九都県市廃棄物問題検討委員会 3R普及促進事業				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		継続	その他		「食べきりげんまんスマイルフォト&ムービーコンテスト」 実施期間:平成28年10月1日~31日 場所:協力事業者の店舗、その他自宅等 内容:食事を残さず食べきって、空になった容器と笑顔の写真又は、食品ロス削減を訴えるショートムービーを専用応募サイトに投稿してもらい、その後入選作品を選定し賞品をプレゼントした。 市内実施店舗:12店舗(フォト部門) 総応募数 :158(フォト部門) 15(ムービー部門)	食品ロス削減の必要性を周知できたが、昨年度と比較し応募総数が減少しているため、キャンペーンの認知度を向上させていく必要がある。
農業政策課	児童体験農業				○	○													継続	複数区	405	・小学生を対象に田植え、稲刈り等の体験事業を実施(3校) 実施場所:西区、見沼区	生産から収穫、消費まで一貫した体験ができ、小学生にとって貴重な体験の機会となっている。 農業後継者対策推進協議会事業として実施している。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
農業政策課	ブランド米推進事業					○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	-	レンゲ草を用いた栽培や農薬・化学肥料の使用を慣行の5割以下に減らした栽培など、環境保全型農業を中心とした米づくりを推進した。	今まで事業を推進していたうまい米づくり協議会が会の目的を達したことにより、今後の推進方法が課題。
農業政策課	地場産農産物料理講習会					○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	96	ふるさとの味伝承士や農村女性アドバイザー等の協力により、市民を対象に旬の地場産農産物を活用した料理講習会を開催し、郷土料理の調理方法や農産物に関する情報提供を行った。 実施場所：岩槻区、北区、中央区、浦和区 開催回数：5回	内容によって応募者数にムラがある。 人気のある内容については、回数を増やすなどの検討が必要。
農業政策課	さいたま市農情報ガイドブック・マップ作成					○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	-	農業情報を掲載した冊子の作成配布を通じて、市内農業の市民へのPRに努めるとともに、地産地消の推進を図った。 ・農情報ガイドブック 8,000部	昨年度より早い契約を結んだことで、誌面の検討が十分になされた。 配布場所を工夫する等、冊子のより効果的な利用方法を検討する必要がある。
農業政策課	農産物ブランド化事業					○	○	○	○	○	○	○	継続	複数区	-	さいたま市内には、くわい・紅赤いも・さといも・小松菜・チコリー・木の芽など特色ある農産物が多く生産されており、花や植木の生産も盛んである。これらの農産物自身をPRするとともに、加工品の開発・商品化を行い、市内農産物の生産振興とその販路拡大を図った。 ・紅赤の商品化における新規開拓 ・イベント、庁内外でのPR活動	・加工品の原料の安定供給
農業政策課	ニーズ対応型農業支援事業			○		○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	-	消費者ニーズに対応した「欲しいものをつくる」ニーズ対応型農業を支援するため、地元業者と連携をとり、ホップの試験栽培を行った。	引き続き、ホップの試験栽培を行うとともに、新たなニーズの把握が必要である。
10区保健センター協力事業	食生活改善推進員養成講座	◎	◎			◎							継続	複数区	52人	10区合同事業 4日間1コース (大宮区・浦和区等会場) 実施日：8月17日、11月2日、9日、16日 いずれも水曜日 内容：講義・運動実技・グループワーク	アンケート結果より、講義・実習等は全体的に概ね理解されていた。意見・感想でも「先生方のお話を大変有意義に聞きました」など好評の意見がほとんどであったが、「話の流れと資料提示が分かりにくい」という意見もあったことから、講師との打合せの時にアンケートの意見も盛り込んだ講義内容等検討を行っていきたい。
10区保健センター協力事業	親子食育講座 ～元気になるお弁当★ ヌウ&コバトンのおにぎり作り～	◎	◎			○							継続	複数区	64組(4回)	対象：3～6歳児(未就学児)とその保護者 実施日：8月5日西区保健センター、8月9日見沼区保健センター、8月19日南区保健センター、8月26日浦和区保健センター、 内容：エプロンシアター「元気になるお弁当」 実習「ヌウとコバトンのおにぎり作り」	参加者へのアンケート結果より「三食しっかり食べる」「いっしょに楽しく食べる」重要性について伝えることができた。参加者への感想からは家庭での食育実践へ繋げることができた。
保健センター共通事業	食生活改善推進員の育成	○	○			◎					○	○	継続	全区		各区の状況に応じて食生活改善推進員を育成。地区活動が円滑に進むよう、各区の活動状況にあわせた支援(研修会の開催や活動内容へのアドバイス等)を行っている。	支援を通して、地域における食を通じた健康づくりを進めている。会員一人一人の質の向上と、会員数の増加をひき続き目指していく。
保健センター共通事業	地区依頼教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	全区	区によって異なる	区の状況に合わせて依頼を受けた。	食育推進計画(第2次)の推進を図る。
保健センター共通事業	出産前教室	◎							○	○			継続	全区	区によって異なる	妊娠中の食生活の留意点についての講義とバランスのとれた食事についての調理実習を実施。 実施日、実施回数については区によって異なる。通年実施。	・区、月によって参加状況に差がある。 ・各区の現状にあった内容に見直しを行っていく。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check					
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等			
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進
保健センター共通事業	パパとチャレンジ！わくわくクッキング	○	◎	○		◎	○	○	○				継続	全区	西区:10組 北区:10組 大宮区:10組 見沼区:12組 中央区:11組 桜区:6組 浦和区:8組 南区:5組 緑区:11組 岩槻区:7組	対象:小学生とその父親 実施日:6月～7月に各区1回 内容:「『いのちに感謝いただきます』残さず食べて『ごちそうさま』」をテーマに調理実習	アンケート結果より、「教室に参加したことで、現在の食生活を振り返るきっかけになりましたか。」の問で、「きっかけになった」と回答した人が93%と高い値となったことから、教室の内容は子育て世代の男性への生活習慣病予防普及啓発の機会となったと考えられる。	
保健センター共通事業	特定保健指導	○							○	○			継続	全区	区によって異なる	生活習慣改善の自主的な取り組みのため、行動目標を立て、6ヶ月間支援を行う。乱れた食生活を改善し、内臓脂肪の減少のために1日にどのくらいのエネルギーが必要なのかを知り、朝食の大切さ、3食バランスよく取ることを食事バランスガイドなどを活用し支援していく。実施日は各区により異なる。	積極的支援を受けた方は、食事の見直しについて認識できたと考えられる。健診後、対象者が保健指導に繋がるような働きかけが必要である。	
保健センター共通事業	離乳食教室	○	○			○			○	○	○		継続	全区	各区定員20～40人	対象:4～5か月児の保護者 実施:毎月1～2回 場所:保健センター 内容:離乳食の進め方講義と試食	不安を感じずに離乳食をすすめられるよう、デモンストレーションや試食を交えて教室を実施。お断り件数が少なくなるよう定員を配慮。	
西区保健センター	食育推進を目的とした普及啓発(掲示等)	◎	○			○	○	○	○	○	○	○	継続	西区	—	<対象>区役所来庁者 <実施日>6月、10月 <場所>区役所内区民ホール <内容>6月:食育月間に、いただきます、ごちそうさまについての資料を掲示。農業政策課作成の農情報ガイドブックを配布。 10月:さいたま朝ごはんを食べよう強化月間に朝食の大切さや役割、朝ごはんのおすすめレシピを掲示。米農家の方からいただいた、稲、もみ殻、ぬか、玄米、精白米などを展示。朝食摂取に関するパンフレット配布。	情報を視覚的にまとめ、資料を自由に選べることで、区民がそれぞれ興味のある内容の資料を持ち帰ることができた。	
西区保健センター	西区発！親子でごちそうごはん	◎	○	○		○	◎		○	○								
西区保健センター	かがやく女性のためのHAPPYエイジング～燃焼系編～	○		○		○					○	○						
西区保健センター	自分磨きゼミ～食べて・しゃべって・輝いて～	○		○		○					○	○						
西区保健センター	にこにこ食育教室！～西区の味を我が家にプラス！～いわしの手開きに挑戦！	◎	○	○		○	◎		○	○			継続	西区	9組	<対象>区内在住の小学生の保護者 <実施日>6月25日(土) <場所>保健センター <内容>西区の稲作について米農家の方からの講話と直売所の紹介。いわしの手開きの実習と開いたいわしと西区産のお米で蒲焼丼を親子で作った	地元農家の協力を得て実施した。教室後アンケートでは全員が「今後直売所を利用してみたい」と回答した。生産者から直接話を聞き、実際に食べることで地産地消の動機づけにつながったと考えられる。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check					
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ								平成28年度			成果・課題等
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	
西区保健センター	にこにこ食育教室！～西区の新米でキッズクッキング！～おにぎらずに挑戦！	◎	○	○	○	◎	○	○						継続	西区	11組	<対象>区内在住の小学1～2年生とその保護者 <実施日>10月1日(土) <場所>保健センター <内容>西区の稲作について米農家の方からの講話と直売所の紹介、西区産のお米を使用し、おにぎらずを親子で作った。	地元農家の協力を得て実施した。教室後アンケートでは『今後直売所を利用してみたい』と回答したものが9割以上だったため、生産者から直接話を聞き、実際に食べることで地産地消の動機づけにつながったと考えられる。同じアンケートで『今日の実習を参考に家庭でも料理の手伝いをさせてみようと思う。』と全員が回答した。実際に親子で調理実習をすることで、家庭での調理の動機づけにつながったと思われる。
北区保健センター	食育推進を目的とした普及啓発(掲示等)	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	—	<対象>来庁者 <実施日>①6月、9月、10月②通年 <場所>①エレベーターホール②保健センター内展示コーナー <内容>①6月:食育月間、9月:健康増進月間、10月:朝ごはんを食べよう月間に啓発記事の掲載、ポスター・掲示物での啓発、パンフレットの配布②食モデルやポスターの掲示、パンフレットの配布	啓発時期に特集的に食の情報を発信することで、広く市民に食について普及啓発を実施することができた。
北区保健センター	からだスッキリ教室(生活習慣病普及啓発事業)	○	○			○								継続	北区	41人	対象:18歳から64歳 実施日:6月30日(木)、8月10日(水)、2月28日(火) 場所:北区保健センター 内容:運動実技、体組成測定、ミニ講義(熱中症、栄養、歯科)、栄養に関するDVD視聴	ミニ講義の中で、主菜・野菜の1日の摂取適正量や減塩のポイントについて市民に伝えることが出来た。その後のグループワークの中で栄養に関する質問も多数みられ、自身の食生活の課題に気づく等理解が深まっていた。
北区保健センター	イトーヨーカ堂における普及啓発	◎	◎			◎	○	○	○	○	○	○	○	継続	北区	652名	対象:イトーヨーカドー来店者 実施日:①6月3日(金)②9月16日(金) 場所:イトーヨーカドー1階 内容: ①食育クイズ、1日の野菜摂取目標量・朝飯モデルの実物展示、COモニター、乳がんの自己触診等がん検診の普及啓発 ②健康クイズ、減塩のポイントを示した献立展示、COモニター、乳がんの自己触診等がん検診の普及啓発	お昼時のフードコートは若い世代の親子連れから高齢者まで大勢の来客があり、気軽に立ち寄って参加する方も多く、家族の食の大切さについて考えてもらえるきっかけになった。店舗の協力が得られるよう引き続き調整が必要。
北区保健センター	パパ流100日間肉体系改造計画	○	○			○	○							継続	北区	38人	対象:私立幼稚園に通園している保護者とその児 実施日:①7月9日(土)②12月10日(土) 場所:銀鈴幼稚園 内容:健康に関する講義、体組成と体力測定、歯科講義と実技、運動実技、乳がんの自己触診、(母子に対して)食育講義、食生活改善推進員による食育絵本の読み聞かせ・エプロンシアター	若い世代の父親への運動教室を実施した。父親の体力測定中に、児に対し3色食品群について講話を行った。クイズを交えながら話すことで児も楽しみながら食育を学ぶことができた。また、絵本やエプロンシアターでも児が意欲的に食材の名前等を発言する様子が見られ、食の興味を引き出すことが出来た。
北区保健センター	ウォーキング教室 達人編	○												継続	北区	30人	対象:18歳から64歳 実施日:①11月1日(火)②11月11日(金)③11月30日(水) 場所:保健センター・プラザノース周辺 内容:ウォーキング、保健師・栄養・歯科の講義、運動指導士によるウォーキングレクチャー	3日間1コースの運動教室の中でバランスの良い食生活についての講義や、参加者が事前に書いてきた食事記録票を用い主食・主菜・副菜のグループ分けを行った。その中で活発に質問をする方もみられ、自身の食生活を見直すきっかけを作ることが出来た。
北区保健センター	北区健康づくり 階段クイズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	新規	北区	—	対象:来庁者 実施日:平成28年10月1日～平成29年3月31日 場所:北区役所東側階段 内容:健康・栄養・歯科に関するクイズの問題・解答の掲示、チラシの配置	階段を利用している市民に対し、食の情報を発信することで健康に対する意識を高めるきっかけづくりを行うことが出来た。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan												Do			Check					
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					新規 継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	平成28年度 取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等				
		5つの「食べる」 三食	い っ し よ	確 かな 目	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期						壮 年 期	高 齢 期		
大宮区 保健センター	健康週間を利用した食育の普及啓発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	大宮区	—	対象:大宮区役所来庁者 実施日:①食品衛生月間(8月1日～8月31日)②朝ごはんを食べよう強化月間(10月3日～31日) 内容:①食中毒予防②朝食摂食について区報へ啓発記事の掲載、保健センター掲示コーナーにてポスターや掲示物での啓発、パンフレットの配布を実施。	保健センターへの来庁者をはじめ、広く市民に普及・啓発ができた。
大宮区 保健センター	ママの元気アップ講座 ～ちょっと一息こころからだのほぐしタイム～	○	○			◎				○	○					継続	大宮区	28組(1回)	対象:区内在住の0～3歳児とその母親 実施日:11月14日(月) 場所:子育て支援センターおおみや 内容:栄養バランスのとれた食事についての講義と体組成測定 ※食育に関する内容以外で外3回実施	子育て支援センターおおみやと協働で実施したため参加者が多く集まった。乳幼児を持つ母親に適正な食事量と栄養バランスの整え方、家族や仲間と楽しく食べる大切さについて伝えることができた。体組成測定をあわせて行い、食事と健康の関連性についても啓発する機会となった。
大宮区 保健センター	男の筋トレ講座	◎	○											○	○	継続	大宮区	7名(1回)	対象:区内在住の18～64歳の男性 実施日:平成28年9月3日(土) 場所:大宮区役所 内容:朝食摂食と減塩の重要性についての講義・実習、体組成測定 ※食育に関する内容以外で外1回実施	利き味噌汁を実施し、参加者が日頃の塩分摂取について振り返る機会を提供できた。「朝食」の重要性についても直接伝えることができた。参加者を定員まで集めることができなかったため、広報等の活用について見直しが必要。
大宮区 保健センター	生活習慣病予防普及啓発イベントにおける食育啓発	○				◎										継続	大宮区	424名(2回)	対象:イベント参加者 実施日:①大宮区少年少女サッカー教室10月23日(日)、②大宮区ふれあいフェア10月29日(土) 実施場所:①NACK5スタジアム、②鐘塚公園 内容:「朝ごはんを食べよう」等、食育に関するリーフレットの配布による普及啓発。	大宮区で実施されたイベントへの参加者に、パンフレットや食育啓発グッズを配布し、広く市民に啓発ができた。効率的に広く啓発する機会となった。
大宮区 保健センター	大宮区役所内で行われる事業を利用した食育の普及啓発	○				◎										新規	大宮区	—	対象:区役所内各課・他団体主催の事業への来所者 実施日:①食品衛生協会主催事業8月18日～19日、9月7日～9月9日、1月26日～27日、2月21日・27日～28日②市民税納税申告大宮区役所会場2月16日～3月15日 内容:食中毒予防、朝食摂食、野菜摂取についての普及啓発。会場内にポスターを掲示、パンフレットの配布を実施。	大宮区役所で行われる他課・他団体主催の事業への来所者に広く普及啓発ができた。利用者にとっても待ち時間に情報を得る機会となるため、今後も関係各課・団体と連携しながら啓発をしていきたい。
大宮区 保健センター	行政情報電光放映板を利用した食育の普及啓発	○				◎										新規	大宮区	—	対象:大宮区役所来庁者 実施日:①8月1日～9月30日②10月3日～10月14日 内容:①食育の日についてH28年度重点目標「まごころに感謝して食べる」の普及啓発②朝ごはんを食べよう強化月間についての普及啓発 大宮区役所1階の行政情報電光放映板を活用し、①②について窓口利用者に普及啓発。	各種申請の待ち時間を利用し、大宮区役所利用者に広く普及啓発ができた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
見沼区保健センター	～運動したパパママへ～ きらきら☆こども食堂	○	○	○	○	○	○	○				新規	見沼区	32名 (1回)	対象:区内在住の小学校3～6年生の児童とその保護者 実施日:平成28年7月25日(月) 場所:見沼区役所保健センター 内容:子どもは、元気な体をつくる食事の講義、調理実習。親は、体組成測定、生活習慣病予防についての講義、運動実技を行った。	昨年度までの教室名、教室内容を変更し、新規事業として実施した。 アンケートにて、親は生活習慣病予防のために、今より10分多く身体を動かそうと思ったと全員が回答し、望ましい運動習慣へのきっかけづくりになった。子どもは栄養バランスの良い食事をとる大事さ、1日3食食べる大事さがわかったとの回答が多く得られ、望ましい食習慣について学ぶことができた。	
見沼区保健センター	アラフォーからのボディレッスン	○				○						継続	見沼区	延べ76名 (2日間1コース年間2コース)	対象:区内在住の64歳以下で生活習慣病予防に関心のある方、また特定健康診査の結果「積極的支援」の判定を受けた方。 実施日:年2コース(10月コース 平成28年10月17日(月)・24日(月)、2月コース 平成29年2月6日(月)・13日(月)) (1コース2日間) 場所:見沼区役所保健センター、クラブハウスSSCあすも 内容:メタボリックシンドローム予防のための「簡単ヘルシーごはん術」の講義と試食。2日目はメリハリボディエクササイズを実施。	昨年度と同じ内容であるため、小学校へ配布するちらしに掲載し周知した。アンケートから「食量・食事内容の見直し、油・塩分の取り方、毎日体を動かす、筋トレ・ストレッチをする」について、生活習慣病改善の意向がみられ、行動変容のきっかけづくりになった。来年度は、生活習慣改善が定着するよう1コース3日間で実施する。	
中央区保健センター	親子deクッキング	◎	◎				○	○				継続	中央区	14組32名 (1回)	親子で楽しく調理実習をしながら食生活を見直し、食事の大切さを学ぶ教室 対象:3歳～未就学児とその保護者 実施日:5月22日(日) 場所:中央区役所保健センター 内容:講話と調理実習	アンケート結果より、「子どもと一緒に料理すること」を目的として参加した人がほとんどであった。今後も食育事業を通して食育の大切さを伝えていくように継続しておこなっていく予定。	
中央区保健センター	パパとチャレンジ! ヘル歯クッキング ～幼児編～	◎	◎				○	○				新規	中央区	9組19名 (1回)	父と子供と一緒に調理と歯みがき実習を行い、栄養バランスの良い食事や食生活・歯の健康について楽しく学ぶ教室 対象:3歳～未就学児とその父親 実施日:7月2日(土) 場所:中央区役所保健センター 内容:講話と調理実習	アンケート結果より、「バランスのとれた食事、朝ごはんの大切さがわかった」と回答が100%であった。今後も食育事業を通して食育の大切さを伝えていくように継続しておこなっていく予定。	
中央区保健センター	ヘル歯お菓子クッキング &ウエル嚙むお茶会		◎							○	○						
桜区保健センター	ごちそう☆桜区レストラン		◎			○	◎	○				継続	桜区	9組18名	対象:小学3～6年生とその保護者 実施日:3月18日(土) 場所:桜区保健センター 内容:桜区の伝統野菜「五関菜」の調理体験や生産者からの講話を通し、食文化や地産地消について伝える。また、親子で試食することで、共食の大切さを伝える。	アンケート結果より、理解度・満足度は100%であった。また「五関菜のことについてよくわかりました」「地産地消をしたほうが良いことがわかりました」「おいしく楽しく参加できました」等の感想があった。	
桜区保健センター	(M)みんなで(I)一緒に (A)歩こう会♪	◎	○									継続	桜区	29名(3回)	対象:さいたま市民(のびのびウォーキング参加者) 実施日:6月15日(水)、10月4日(火)、12月2日(金) 場所:桜区保健センター 内容:朝ごはんを食べる習慣や野菜摂取の大切さ等についてミニ栄養講話を実施後、桜区ふれあいロードをみんなでウォーキング。	パンフレットの配布やフードモデルの提示で、よりわかりやすく食育について伝えることができた。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					平成28年度										成果・課題等	
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容【実績】 (対象・実施日・場所・内容等)					
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												
桜区保健センター	「朝まんじゅうに昼うどん」親子手作り教室	○				◎	○						新規	桜区	35名	対象:小学校4年~中学生とその保護者 実施日:8月1日(火) 場所:プラザウエスト キッチンスタジオ 内容:桜区の食文化を将来に語り継ぎ守り伝えることを目的として、保健愛育会と協働して実習を行う。	教室の隙間時間に食育についての講話、啓発品の配布を行い、教室参加者へ効率よく食育の推進ができた。	
浦和区保健センター	うらわメタ防クラブ with PTA (生活習慣病予防普及啓発事業)	◎	○	○		○	◎	○					継続	浦和区		平成28年度は食育以外の内容で実施		
浦和区保健センター	10年後も美しい私の食習慣 in 幼稚園 (生活習慣病予防普及啓発事業)	◎	○	○		○	◎	○					継続	浦和区	①26名 ②23名	さいたま市私立幼稚園協会浦和区支部の協力により開催 【対象】区内私立幼稚園の保護者 【実施日】①7月15日(金) ②10月21日(金) 【場所】①聖フランソワ幼稚園 ②本太幼稚園 【内容】管理栄養士による講義「バランスのよい食事」、歯科衛生士による講義「歯と口の健康」、保健師による講義「メタボの基礎知識」	アンケート調査結果より「自分にとって適切な食事の内容・量が分かった」100%、「教室に参加したことでバランスのよい食事を実践しようと思った」96%であり、望ましい食習慣について考えるきっかけを提供することができたと考えられる。	
浦和区保健センター	夏休み親子味と調理の発見教室	◎	○	○		○	◎	○					継続	浦和区	①18名②8名	さいたま市PTA協議会浦和区連合会の後援をいただき開催 【対象】区内在住または在学の小学校4年生の児童とその保護者 【実施日】①7月27日(水)②7月29日(金) 【場所】浦和区役所保健センター 【内容】管理栄養士による講義、調理実習、保健師による健診・検診の受診勧奨 【協力】食生活改善推進員	アンケート調査結果より、親子全員が、バランスのよい食事が「分かった」または「だいたい分かった」と回答した。参加者は、講義や調理実習を通して、望ましい食生活について理解したと考えられる。昨年度に引き続き申し込みが定員に満たなかったため、来年度は対象学年の拡大を検討。	
浦和区保健センター	浦和区健康まつり保健センターブース	◎				○	○	○	○	○	○	○	継続	浦和区	延べ6,342名(浦和区健康まつり全体の来場者数)	【対象】来場者 【実施日】11月6日(日) 【場所】浦和コミュニティセンター 【内容】望ましい食習慣や生活習慣病予防に関する展示・パンフレット等の配布	多くの方に望ましい食習慣や生活習慣病予防について普及啓発ができたと考えられる。	
南区保健センター	食育講座 おやつ&歯びか教室		◎				○				○		継続	南区	5組(1回)	【対象】南区在住の2歳児とその両親 【実施日】12月17日(土) 【場所】南区役所保健センター 【内容】講義「野菜の食べ方とその効果」「歯周病予防」 実習「野菜を使ったおやつ作り」「仕上げみがき実習」	参加した親全員から、「自身の食習慣や歯の健康について振り返るきっかけとなった」という回答を得た。当該事業への参加が、食習慣や歯の健康について考えるきっかけになったと思われる。参加者が少なかつたため、対象、実施日、周知方法の変更を予定している。	
緑区保健センター	パパと一緒に栄養教室	○	◎	○	○	○		○					継続	緑区	9組(19人)	対象:小学3~6年生とその父 実施日:12月3日(土) 場所:緑区保健センター 内容:講義「バランスの良い食事」 実習「キッチン作り」 講義「よく噛んで食べることの大切さ」	対象を3~6年生にし、開催時期を早めて開催した。さらに、区内の小学校3校にちらしを配布した結果、参加者数が去年よりも増加した。アンケートの結果より、教室の満足度が高く、父と子で一緒に食について学ぶ良い機会となった。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do				Check				
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度				成果・課題等	
		5つの「食べる」					乳幼 学 幼 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 /継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)			
		三 食	い っ し よ	確 かな 目	ま ま こ ろ	食 文 化									食 育 の 推 進	新規		実施 場所
緑区 保健センター	区民まつり (保健センターブース/ のびのび子育て広場食 育コーナー)	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	継続	緑区	保健センター ブース 526人 食育コーナー 626人	対象：緑区民まつりの来場者 実施日：10月15日(土) 場所：農業者トレーニングセンター緑の広場(緑区民まつり会場) 内容：保健センターブース「体組成測定・握力測定」 食育コーナー「食育クイズ」	保健センターブースでは、子供連れの家族からお年寄りまで幅広い年代の方が参加した。 子育て広場では、幼稚園から小学生くらいまでのお子さんと親が参加し、楽しくクイズに答えていた。
緑区 保健センター	プレ更年期教室			○					○	○			継続	緑区	20人	対象：30～40代の女性 実施日：10月4日(火) 場所：緑区保健センター 内容：講義「プレ更年期の特徴と気を付けたい食事」 実習「プレ更年期を乗り切るリラックス方法と運動」	アンケート結果より、教室の満足度が高く、食生活について考える良い機会になっている。	
緑区 保健センター	おなかすっきりで燃焼し やすい体づくり 運動・栄養教室			○					○	○	○		継続	緑区	21人	対象：18歳～64歳の方 実施日：11月1日(火) 場所：緑区保健センター 内容：「お腹まわりの筋肉を使うエクササイズ」「便通を良くするバランスの良い食事」「いつまでも若く保つためのお口の健康について」	食物繊維を多く含む食品を使ったおかずの試食やレシピを提供することで、便通をよくする食事や食品選択について伝えることができた。また、アンケート結果より、教室の満足度が高く食生活について考える良い機会になっている。	
緑区 保健センター	家族みんなで健康教室	○	◎	○		○	○	○	○	○			新規	緑区	30名	対象：2歳～未就学児とその両親 実施日：8月6日(土) 内容：子育て中の両親と子供が参加することで、母親に家族の食生活について、父親に手軽にできる運動を紹介し、家族全体で生活について見直すきっかけとする。	アンケート結果より、教室の満足度が高く、家族そろって食生活を振り返る良い機会となっている。	
岩槻区 保健センター	達人に学ぶおやこシリーズ	○	◎	○	○	◎	○		○	○			継続	岩槻区	①14名 ②27名	対象：①小学生とその両親 ②小学生の親子 実施日：①7月29日②1月21日 場所：保健センター 内容：①「かけこの達人～楽しく走るコツ教えます！」父親対象に栄養士から運動と食事についての講話と運動後に適した食事の調理実習をし、親子で試食 ②「めざせ！岩槻産ヨーロッパ野菜ソムリエ」地元農家の方からヨーロッパ野菜についての講話と岩槻産ヨーロッパ野菜を使って親子で楽しく調理実習	アンケート結果より、参加者の満足度は高く、今後の生活生かせると思うと感じた人が多かった。 ①について、満足度は高かったが、申込者が少なく、集客に労した。来年度は、申込者が参加しやすいよう、学校行事等も踏まえながら検討する。 ②について、参加した親からは「子供が、普段食べない野菜を進んで食べてくれた」といった感想もあり、親子共に野菜を食べる事の大切さや、健康づくりへの意識付けが出来た。来年度はテーマと内容を変え実施する。	
岩槻区 保健センター	やまぎきまつり	◎		○						○	○		継続	岩槻区	108名 (ブース来場者)	対象：やまぎきまつり来場者 実施日：10月16日 場所：岩槻文化公園 内容：区民祭りで野菜摂取量の啓発と食塩摂取量についてのパンフレットを配布	野菜や食塩摂取量についての掲示やパンフレットの配布を用いて説明することで、来場者が日頃の食習慣について振り返る機会となったと考えられる。	
岩槻区 保健センター	健康月間における 普及啓発掲示	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○		継続	岩槻区	—	対象：岩槻区役所来所者 実施日：①平成28年9月1日～9月30日 ②平成28年10月3日～10月31日 場所：岩槻区役所内や保健センター掲示スペース 内容：①「健康増進普及月間」 ②「朝ごはんを食べよう強化月間」 啓発展示コーナーを設置し、来所者向けにポスターの掲示、パンフレットや付箋の配布を実施	市民が利用する区役所内や、目に留まりやすい掲示スペースに情報を置くことで、多くの市民へ食育や健康づくりへの知識の普及啓発が出来た。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check					
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等			
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)					
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												
健康教育課	さいたま市学校給食週間記念行事						○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	419人	対象:保護者、教職員、一般市民 実施日:平成29年1月18日 場所:市民会館うらわ 内容:講演会、展示等	講演会や児童生徒の作成したポスター、学校給食献立のレプリカの展示を行い、子どもへの食育の大切さや学校給食の担う役割などについて理解を深められた。
健康教育課	研究委嘱事業						◎	○						継続	複数区	—	対象:市立小・中・特別支援学校教職員 場所:緑区、北区、桜区 大宮別所小学校(27.28年度) 東浦和中学校(27.28年度) 中島小学校(28.29年度) 尾間木中学校(28.29年度) 内容:市立小・中学校の希望による委嘱校が食育の推進に取り組み、2年目に研究発表を実施	研究発表会を行い研究の成果を共有することにより、市立学校における食育について理解を深め、食育の推進を図ることができた。
健康教育課	さいたま市学校給食衛生管理講習会			○				○						継続	その他	474人	対象:市立小・中・特別支援学校教職員 実施日:平成28年8月22日 場所:市民会館おおみや 内容:講演会	学校給食における衛生管理の向上を図ることができた。対象者が、管理職、学校栄養士、調理従事者と職種が様々であったり、受講者が毎年ほぼ同じであったりするため、講演内容について考慮する必要がある。
健康教育課	地場産物の活用推進					○	○		○					継続	複数区	—	①彩の国ふるさと学校給食月間の実施 対象:児童生徒 実施日:11月 場所:市立小・中・特別支援学校 内容:埼玉県産、さいたま市産の食材の使用 ②地元生産者との情報交換会 対象:西区、北区、桜区、浦和区の 学校栄養士 実施日:7月～8月(各区ごとに実施) 場所:市立小・中学校 内容:地元生産者と地場産物の給食への活用について情報交換を市内10区を3つに分け、3か年計画で実施	①平成28年度の地場産物活用率は、29.1%であった。前年度より0.6%増加した。 ②地元生産者と学校栄養士が、生産状況や給食へ地場産物を使用するための条件等を話し合い、それぞれの立場を理解することができた。少しずつ活用につながってはいるが、活用拡大のためには、今後も話し合いを継続していく必要がある。
健康教育課	生活習慣病予防学校検診	○						○						継続	全区	172	対象:腹囲身長比0.5かつ肥満度35%以上の小1～小4、中1 実施日:10～11月(各医師会ごとに実施) 場所:各医師会等 内容:医師、栄養士による個別指導、集団栄養指導、学校における継続指導	小1から小4になるまでの期間で肥満の児童数の増加が見られることから、低学年の指導の充実を図っている。
健康教育課	地元シェフによる学校給食の実施		○			○	○		○					継続	その他	20校	対象:児童生徒、教職員 実施日:給食実施日 場所:市立小・中・特別支援学校 内容:地元のシェフと連携を図り、学校給食を実施	児童生徒の食への関心が高まった。より多くの学校が実施できるよう、シェフと連携を図る。
健康教育課	学校教育ファーム					○	○		○					継続	全区	小103校 中57校 特支2校	対象:児童生徒、教職員 場所:市立小・中・特別支援学校 内容:農業体験活動	教育計画へ位置づけ、市立全小・中・特別支援学校で実施できた。農業体験活動を通して、食物や生産者の方への感謝の気持ちを育むことができた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check				
担当課所名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)				
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
生涯学習振興課	「すくすく のびのび 子どもの生活習慣向上」キャンペーン	○											継続	全区	-	<p>○さいたま市教育委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度～30年度の3年間で新キャンペーンを実施した。 キャンペーンに係る啓発ポスター、啓発リーフレットの配付及び保護者会での啓発資料の作成、配布を行った。 市PTA協議会と連携し、本事業についての説明を行った。 <p>○学校の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> キャンペーンの重点項目及び児童生徒の生活習慣の実態を踏まえ、組織的、計画的に家庭への呼び掛け及び児童生徒への意識付けに取り組んだ。 保護者会や地域住民との交流機会を通し、児童生徒の生活習慣向上に向けた学校の取組を説明するなど、家庭や地域と連携・協力して取り組んだ。 <p>P28～P35参照</p>	<p>○平成28年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰をさいたま市立善前小学校が受賞した。</p> <p>○平成28年度さいたま市学習状況調査(平成29年1月実施)の結果によると、朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、中学2年生が、80.6%であり、昨年度より0.5ポイント上昇した。小学5年生は、84.7%であり、昨年度より1ポイント減少した。これらの結果を踏まえ、「朝食の摂取率増加」に向け、朝食を焦点化した取組を推進していく。</p>
生涯学習総合センター	(各公民館事業)																
健康増進課	食育全般の推進	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	継続	その他		<p>①食育推進協議会 2回開催(7月、2月)</p> <p>②食育推進担当者会議 3回開催(5月、11月、1月)</p> <p>③食育なびによる情報発信</p> <p>④第2次さいたま市食育推進計画の普及・啓発 「0歳から家庭で実践できる食育」をテーマとしたクリアフォルダを増刷、保健センターの離乳食教室等で市民へ配布。</p> <p>⑤食育を実践しようプロジェクト 3回開催(8月、12月、2月) 市内在住または在学の大学生による食育活動を支援した。児童センター、放課後児童クラブ、大学において食育活動を実践した。</p>	<p>食育に関する情報発信や広報活動、食育を推進する人材の育成・支援、食育推進のためのネットワークの強化により、第2次さいたま市食育推進計画を推進した。</p> <p>取組の継続、さらなる強化が必要。</p>
健康増進課	5つの「食べる」の推進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他		<p>①食育月間(6月)、食育の日(毎月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ポスター作成・配布(保育施設、放課後児童クラブ、教育機関、公共施設等) ウエットティッシュ配布(保健センター等) 食育なび、市ホームページ、市報による普及啓発 <p>②食育を実践しようプロジェクト(再掲)</p> <p>「まごころに感謝して食べる」の取組として、食品ロスについてリーフレットを作成・配布した。</p>	<p>平成28年度の重点目標「まごころに感謝して食べる」を啓発できた。</p>
健康増進課	重点プロジェクト(共食、朝食、協働)の推進	◎	◎			◎	○	○	○	○	○	○	継続	その他		<p>①共食</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育なびによる啓発 <p>②朝食</p> <ul style="list-style-type: none"> 「毎年10月は朝ごはんを食べよう強化月間」ポスター作成・配布(保育施設、放課後児童クラブ、教育機関、公共施設等) 東武野田線(東武アーバンパークライン)の市内7駅にポスターを掲出(10月1日～10月7日) 食育なび、市ホームページ、市報による普及啓発 <p>③協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育を実践しようプロジェクト(再掲) 	<p>共食、朝食の重要性を啓発できた。</p> <p>取組の継続、さらなる強化が必要。</p>

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
担当課所名	事業名	計画の目標					平成28年度										
		5つの「食べる」					ライフステージ										
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)
健康増進課	各ライフステージにおける食育の推進	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	継続	その他	①「さいたま市乳幼児期における食育取組事例集」作成・配布(幼稚園、保育施設等) ②「さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向け」リーフレット作成・配布(幼稚園、保育施設等) ③0歳からの食育講座(0～2歳児と保護者対象、8月、西区子育て支援センター) ④食育を実践しようプロジェクト(再掲)	各ライフステージの課題や目指す姿に合わせた食育を実施できた。 成人期、壮年期、高齢期を対象とした取組の充実が課題。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

3 公民館の食育取組状況

- | | | | | |
|-------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 【西区】 | ・ 指扇公民館 | ・ 内野公民館 | | |
| 【北区】 | ・ 日進公民館 | ・ 宮原公民館 | ・ 植竹公民館 | |
| 【大宮区】 | ・ 桜木公民館 | ・ 大宮南公民館 | ・ 大宮中部公民館 | ・ 大宮北公民館 |
| | ・ 三橋公民館 | | | |
| 【見沼区】 | ・ 大砂土東公民館 | ・ 片柳公民館 | ・ 七里公民館 | ・ 春岡公民館 |
| 【中央区】 | ・ 大戸公民館 | ・ 与野本町公民館 | ・ 上落合公民館 | ・ 下落合公民館 |
| 【桜区】 | ・ 田島公民館 | ・ 土合公民館 | ・ 大久保公民館 | ・ 栄和公民館 |
| | ・ 大久保東公民館 | | | |
| 【浦和区】 | ・ 領家公民館 | ・ 浦和南公民館 | ・ 上木崎公民館 | ・ 大東公民館 |
| | ・ 針ヶ谷公民館 | ・ 本太公民館 | ・ 仲町公民館 | ・ 北浦和公民館 |
| | ・ 南箇公民館 | | | |
| 【南区】 | ・ 文蔵公民館 | ・ 南浦和公民館 | ・ 谷田公民館 | ・ 六辻公民館 |
| | ・ 別所公民館 | ・ 善前公民館 | | |
| 【緑区】 | ・ 原山公民館 | ・ 美園公民館 | | |
| 【岩槻区】 | ・ 岩槻本丸公民館 | ・ 岩槻本町公民館 | ・ 岩槻南部公民館 | |

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																							
89		97		1512																									
区	公民館名	館No (名簿順)	館内講座No	事業種別 コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満足度	中止 コード	中止の理由	三食	いっしょ に	確かな	まごころ	食文化	推進	乳幼 児期	学齢 期	青年 期	成人 期	壮年 期	高齢 期	継続	
西	指扇	2	23	1510	親子deクッキング (指扇ヘルスマイト講座)	親子と一緒に調理をし、栄養について学び、みんなで食事をする楽しさを体感した。	さいたま市食生活改善推進員協議会	11月	1	2歳から未就学児とその保護者	12組	24	100				○					○	○						
西	内野	5	12	1510	独身のためのデコ巻(飾り巻き寿司)スクール	江戸前寿司の「細工寿司」技術から発展した新しいジャンル(デコ巻)の寿司を学びました。	飾り巻き寿司インストラクター	6月	1	20代～30代独身の方	10人	11	100				○	○	○	○	○			○	○				
西	内野	5	33	1510	国際理解講座	フランス料理を通して国際理解を図りました。	フランス料理ディプロマ	12月	1	どなたでも	24人	22	100				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
北	日進	7	46	1510	食育講座「奥深き四大中華料理にチャレンジ」	四大中華料理を作り、家庭で楽しみました。	国際クッキングスクール専門調理師	5月	1	成人の方	15人	14	92				○									○	○	○	○
北	宮原	8	26	1510	うどん打ち教室	うどん打ちを楽しく体験しました。	日本製粉株式会社 講師 クッキングパートナー	11月	1	成人	18人	17	100						○	○					○	○	○	○	○
北	宮原	8	27	1510	そば打ち教室	そば打ちを楽しく体験しました。	宮原公民館利用サークル 「宮原そばの会」	12月	1	成人	16人	16	100						○	○					○	○	○	○	○
北	宮原	8	28	1510	子ども料理教室「クリスマスケーキ作り」	本格的にスポンジから焼き、イチゴがたくさんのつたケーキを作りました。	料理研究家 助手	12月	1	小学生	16人	16	100				○		○				○						○
北	植竹	9	26	1510	男性料理教室	男性対象で、魚のさばき方やだしの取り方等の料理教室を実施し、家庭での実践につなげました。	料理研究家	10月	2	成人男性	16人	8	100				○	○	○	○						○	○	○	○
北	植竹	9	27	1510	手作り味噌の講習会Ⅰ	昔からの伝統的な味噌作りについて理解を深め、実際に大豆から手作り味噌を作りました。	味噌専門店代表	1月	1	成人	16人	14	100						○	○						○	○	○	○
北	植竹	9	28	1510	手作り味噌の講習会Ⅱ	昔からの伝統的な味噌作りについて理解を深め、実際に大豆から手作り味噌を作りました。	味噌専門店代表	1月	1	成人	16人	16	100						○	○						○	○	○	○
大宮	桜木	10	35	1510	料理講座「世界の食文化」	外国人講師に自国の食文化・習慣をご紹介いただきながら、「ごはん」に合う鶏肉料理」テーマに各国の料理を学んだ講座。	外国出身の親子サークル	2月	1	どなたでも	16人	15	93							○						○			
大宮	桜木	10	42	1510	飾り巻き寿司教室	ロールケーキ寿司と、巻き寿司で「サクラの花」の作り方を学んだ講座。	飾り巻き寿司インストラクター	3月	1	どなたでも	20人	19	100							○						○			
大宮	大宮南	11	34	1510	みそづくり体験教室	手前味噌作り実習を通じて、食品の安全などを考えることを目的とした教室。	いっほの会 会員	2月	2	20歳以上	30人	30	100						○	○	○					○	○	○	○

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																					
89		97		1512																							
区	公民館名	館名(名簿期) - 館内講座No.	事業種別コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満足度	中止コード	中止の理由	三食	いっしょに	確かな	まごころ	食文化	推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	継続
大宮	大宮中部	12 - 20	1510	料理講座	「クリスマスやお正月をおしゃれな盛り付けで華やかに!」をテーマに、グループで協力してワンプレートごはんを作った講座。	栄養士	12月	1	どなたでも	15人	10	85				○			○					○	○	○	○
大宮	大宮中部	12 - 29	1510	料理講座	「気軽に作れるおとなのおやつ」をテーマに、コミュニケーションを深めながら、楽しく簡単なおやつ作りを学んだ講座	栄養士	3月	1	どなたでも	20人	10	88				○			○					○	○	○	
大宮	大宮北	13 - 16	1510	親子スイーツ教室	親子でバレンタインデーのお菓子づくり、手作りの楽しさを体験した講座。	Pain de maman 代表 他	2月	1	小学生と保護者	10組	25	なし				○					○						
大宮	大宮北	13 - 22	1510	太巻き祭り寿司教室	節分にあわせて、切り口がきれいな太巻き祭り寿司の作り方を学び、手作りの楽しさを体験した講座。	料理研究家 他	2月	1	成人	20人	24	100						○	○					○			
大宮	三橋	14 - 3	1510	スパイスからカレーを作りましょう	スパイスからのカレー作りを行うことで、参加者がスパイスの効能等について学んだ	趣味・実技指導者	4月	2	どなたでも	16人	20	100							○		○	○	○	○	○	○	○
大宮	三橋	14 - 6	1510	蕎麦打ち教室	日本の伝統的食文化である蕎麦打ちを行いながら、蕎麦の効能等についても学んだ	蕎麦打ち講師	6月	1	どなたでも	18人	15	80							○		○	○	○	○	○	○	○
大宮	三橋	14 - 41	1510	味噌作り教室	参加者の文化・教養活動を広げるため、味噌作りを学び、また、栄養学の面から味噌の効能についても学んだ	栄養士・味噌作り指導者	2月	1	20歳以上	16人	18	100							○				○	○	○	○	○
見沼	大砂土東	17 - 25	1510	おもてなし料理教室	家庭で簡単にできる、来客へのおもてなし料理として、冬のたきまき・マッシュルーム・デザインとサーモンのサラダ・ココマシマロ・つまり寿司の5品を学びました。	料理研究家	12月	1	市内在住の方	12人	11	100				○	○							○	○		○
見沼	片柳	18 - 28	1510	片柳そば打ち教室	本格的な手打ちそばの打ち方を学びました。	そば打ち指導者	12月	1	どなたでも	24人	23	100							○					○	○	○	
見沼	片柳	18 - 29	1510	クリスマスのおもてなし料理教室	クリスマスのテーブルを華やかに飾る料理を作りました。	料理研究家	12月	1	どなたでも	20人	21	100							○					○	○	○	○
見沼	片柳	18 - 30	1510	手づくり味噌教室	純国産大豆、麹、塩を用いての味噌を伝統手法で作りました。	農産物加工研究者	1月	1	どなたでも	20人	19	100							○					○	○	○	○
見沼	片柳	18 - 31	1510	親子パンづくり教室	親子のコミュニケーションを図ることを目的に、オリジナルのパンを作りました。	料理研究家	1月	1	小学生と保護者	12組	24	100				○						○		○	○		
見沼	片柳	18 - 32	1510	太巻き祭り寿司づくり教室	季節にちなんだ祭り等を太巻きの芯に見立て、本格的な太巻きを作りました。	料理研究家	2月	1	どなたでも	20人	23	100							○					○	○	○	○
見沼	七里	19 - 36	1510	おいしい手作り味噌教室	手作り味噌に挑戦しました。	料理研究家	1月	1	七里公民館地域在住の成人	16人	11	100						○	○					○	○	○	○

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																					
89		97		1512																							
区	公民館名	館No (名簿 期)	館内講 座No	事業種別 コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満 足度	中止 コード	中止の理由	三食 いっしょ に	確かな まごころ	食文化 推進	乳幼 児期	学齢 期	青年 期	成人 期	壮年 期	高齢 期	継続		
見沼	七里	19	- 38	1510	和菓子教室	「道明寺」と「草もち」作りに挑戦しました。	料理研究家	2月	1	市内在住在勤 の成人	15人	14	100				○	○					○	○	○		
見沼	春岡	20	- 5	1510	郷土料理Ⅰ	太巻き祭りすしの作り方を覚えしました。	料理研究家 他	7月	1	成人	16人	16	100					○	○			○	○	○	○	○	
見沼	春岡	20	- 24	1510	郷土料理Ⅱ	太巻き祭りすしの作り方を覚えしました。	料理研究家 他	8月	1	成人	16人	16	100					○	○			○	○	○	○	○	
見沼	春岡	20	- 26	1510	お菓子工房	いちごのロールケーキをつくり方を覚えまし た。	料理研究家 他	3月	1	春岡公民館地 域在住の方	16人	13	100					○	○			○	○	○	○		
見沼	春岡	20	- 29	1510	初心者の手打ち蕎麦教室	手打ちの蕎麦づくりを学びました。	職員	1月	1	春岡公民館地 域在住の方	16人	15	86.7					○	○			○	○	○	○		
中央	大戸	22	- 15	1510	秋の料理教室 「クリスマスにも楽しめるおもてなし料 理」	クリスマスにも使えるおもてなし料理を学び ます。	料理研究家	10月	1	20歳以上	16人	16	100					○	○			○	○	○			
中央	大戸	22	- 16	1510	ホームクッキング教室	安全・安心で簡単に出来るやさしい家庭料 理を学びます。	料理研究家	9月	1	20歳以上	24人	15	100					○	○			○	○	○			
中央	大戸	22	- 29	1510	春の料理教室「お雛さま」	春の彩り爽やかなおもてなし料理(和食)を 楽しく作りましょう	料理研究家	2月	1	20歳以上	16人	9	100					○	○		○	○	○	○			
中央	与野本町	23	- 25	1510	おしゃれな手作りクッキーを作ろう	午後のティータイムを彩るセサミンと紫芋 のおしゃれな手作りクッキーを作る。	菓子研究家	3月	1	成人	16人	15	100				○	○					○	○	○		
中央	上落合	24	- 17	1510	そば打ち講座	そば打ちを体験する。	さいたまそば打ち倶楽部	11月	1	市内在住どなた でも	15人	12	100									○	○	○			
中央	下落合	25	- 4	1510	和菓子作り入門	和菓子を作ることで日本の伝統的な和 菓子文化を体験します。	和菓子職人	6月	1	20歳以上の方	16人	16	100					○				○	○	○			
中央	下落合	25	- 11	1510	おうちでできるはじめてのパン作り	パン作りの基礎から、家庭で簡単にでき るパン作りの良さを学びます。	料理研究家	9~10月	2	20歳以上の方	16人	30	93				○	○					○	○	○	○	
中央	下落合	25	- 18	1510	作ってみよう花寿司	切り口もきれいな花寿司の作り方を学び ます。	ふるさとの味伝承士	11月	1	20歳以上の方	16人	16	100				○	○					○	○	○		
中央	下落合	25	- 23	1510	春を待つ小麦料理と春野菜クッキング	料理作りを通して、国産小麦を使った料理 について学ぶ	日本製粉株式会社料理イ ンストラクター	2月	1	20歳以上の方	16人	16	100				○	○									

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																								
89		97		1512																										
区	公民館名	館名(名簿期)	館内講座No.	事業種別コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満足度	中止コード	中止の理由	三食	いっしょに	確かな	まごころ	食文化	推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	継続		
桜	田島	26	-	29	1510	男の料理教室	料理研究家 助手	9月	1	18歳以上の男性	15人	8	100				○		○						○	○	○	○		
桜	土合	27	-	50	1510	太巻祭り寿司づくり&栄養学講話	料理研究家・管理栄養士	1月	1	土合公民館在住又は在勤者	24人	22	100				○						○	○	○	○	○			
桜	大久保	28	-	31	1510	食育講座(知らないとソンをする栄養の話)	栄養士	2月	1	どなたでも	30人	22	100				○								○	○	○	○		
桜	大久保	28	-	36	1510	味噌づくり教室	地域団体 大久保地区社会福祉協議会	2月	1	どなたでも	12人	15	93							○						○	○	○		
桜	栄和	29	-	8	1510	そば打ち入門講座	地域の方を講師に迎えて実施する手打ちそば教室	6月	1	成人	12人	10	100								○					○	○	○	○	
桜	大久保東	30	-	24	1510	食育講座 親子で和菓子を作ろう	食育の一環として、親子で料理を作成した。	料理研究家	12月	1	大久保地区の小学生とその保護者	8組	7	100								○	○							
浦和	領家	32	-	13	1510	おとこの料理教室 初夏編	食育事業の推進のために、初夏にちなんだ食材を使用した料理教室を行いました。	料理研究家・野菜ソムリエ 料理研究家助手	6月	1	成人男性	16人	11	100				○	○		○	○				○	○	○	○	
浦和	領家	32	-	28	1510	おとこの料理教室 冬編	食育事業の推進のために、冬にちなんだ食材を使用した料理教室を行いました。	料理研究家・野菜ソムリエ 料理研究家助手	12月	1	成人男性	16人	10	100				○	○		○	○				○	○	○	○	
浦和	領家	32	-	29	1510	こども公民館 クッキング教室「クリスマス料理を作ろう」	食育事業の推進及び子どもたちの異学年交流を図るために、子どもでもクリスマスに作れる料理教室を行いました。	料理研究家 料理教室助手	12月	1	小学生	16人	12	なし				○		○	○			○						○
浦和	領家	32	-	32	1510	こども公民館 クッキング教室「ひな祭りに作ってみよう」	食育事業の推進及び子どもたちの異学年交流を図るために、子どもでもひな祭りに作れる料理教室を行いました。	料理研究家 料理教室助手	2月	1	小学生	16人	7	なし				○		○	○			○						○
浦和	浦和南	33	-	36	1510	クリスマス お菓子づくり教室	クリスマスを前にお菓子作り実習を行いました。	お菓子作り講師 料理助手	12月	1	成人	16人	16	100				○								○	○	○	○	
浦和	上木崎	34	-	33	1510	おいしい肉まん《大人編》	大人対象に、楽しみながら、肉まん作りをして交流を図りました。	料理研究家	12月	1	18歳以上どなたでも	12人	10	100				○								○	○	○	○	○
浦和	上木崎	34	-	39	1510	簡単！楽々！手作りベーコン	身近な素材を使って燻製作りを楽しみました。	料理研究家	1月	1	18歳以上の方	16人	17	100				○								○	○	○	○	
浦和	大東	35	-	10	1510	食育講座	地元食材を使った料理を作りました。	料理研究家	12月	1	成人	20人	10	100						○						○	○	○	○	

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																					
89		97		1512																							
区	公民館名	館名(名簿用) - 館内講座No.	事業種別コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満足度	中止コード	中止の理由	三食	いっしょに	確かな	まごころ	食文化	推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	継続
浦和	針ヶ谷	37 - 16	1510	食育講座「パン教室」	「パン教室」ベーコンエビ、フォカッチャ作りを通じて、食育に対する意識向上を図ることができました。	料理講師 料理研究家	6月	2	どなたでも	20人	20	100									○	○	○	○	○	○	○
浦和	針ヶ谷	37 - 33	1510	タイ料理をつくろう!	タイ料理を通じて食育及び公民館事業について理解を深めていただきました。	タイキッチン ウナムファン代表	12月	1	概ね16歳以上の方	18人	17	100									○	○	○	○	○	○	○
浦和	本太	38 - 33	1510	日本の食文化見直し講座「味噌作り」	大豆を煮ることから始め、仕込みまで行い手作りの良さや楽しさを学んだ。	味噌作り指導者	2月	1	成人	15人	13	100							○					○	○	○	○
浦和	仲町	39 - 24	1510	食文化料理教室	食文化の交流を通して、改めて食生活を見直す機会としました。	料理研究家 他	2月	1	成人	20人	28	96							○					○			○
浦和	北浦和	41 - 36	1510	冬の薬膳(寒さに負けない体を作る)	薬膳を学び、健康に役立てました。	料理研究家・国際中医薬膳師	11月	1	成人の方	25人	21	100						○						○	○	○	
浦和	北浦和	41 - 37	1510	アンチエイジング薬膳(健やかでしなやかな人生をおくるため)	薬膳を学び、健康に役立てました。	料理研究家・国際中医薬膳師	12月	1	成人の方	25人	27	96						○						○	○	○	
浦和	北浦和	41 - 38	1510	味噌作り体験教室	味噌作りを体験しました。	味噌作り指導者・味噌作りボランティア	2月	1	成人の方	15人	16	100							○					○	○	○	
浦和	南筈	42 - 35	1510	スローライフ講座「手打ち蕎麦作り教室」	そば作りを通じて手作りの良さを実感し、食の大切さを学びました。	おおくぼ二八会(そば打ち指導者)	12月	1	成人	14人	14	100							○					○			○
浦和	南筈	42 - 36	1510	親子公民館「ケーキ作り教室」	ケーキ作りを通じて食育と親子のコミュニケーションを図りました。	栄養士	12月	1	小学生とその保護者	8組	16	93				○						○		○			○
南	文蔵	43 - 31	1510	大人の食育『体“キレイ”なイタリアン』	美容と健康を意識したイタリアンの実習と試食を通じ、食について考えた。	料理研究家、野菜ソムリエ、薬膳マイスター、食育インストラクター	6月	1	成人	16人	16	100						○						○			
南	文蔵	43 - 32	1510	男の料理教室 担担種編	成人男子を対象に、おいしい担担麺の作り方を学習	料理研究家	11月	1	成人男性	15人	13	100												○			
南	文蔵	43 - 33	1510	男の料理教室 (親子料理) 肉まん編	親子を対象に、おいしい肉まんの作り方を学習した。	料理研究家	2月	1	小学生と男性保護者	8組	26	91				○						○		○			
南	南浦和	44 - 33	1510	快適ライフ料理教室①	秋野菜を使ったおもてなし料理を学ぶ。	料理研究家	9月	1	成人	16人	15	100				○			○				○	○	○		○
南	南浦和	44 - 34	1510	快適ライフ料理教室②	家族で楽しむクリスマスディナーを学ぶ。	料理研究家	12月	1	成人	16人	16	100				○			○				○	○	○		○

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																							
89		97		1512																									
区	公民館名	館名(名簿用) - 館内講座No.	事業種別コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満足度	中止コード	中止の理由	三食	いっしょに	確かな	まごころ	食文化	推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	継続		
南	南浦和	44 - 39	1510	手づくり食品講習会「減塩味噌づくり」	大豆を煮るところから、味噌作りを学んだ。	食生活改善推進委員	3月	1	成人	16人	16	なし							○						○	○	○	○	
南	谷田	45 - 19	1510	災害時の食事	万一、災害が発生した場合に備え、災害時の非常食(乾パン・缶詰等)を食材にした調理方法を学びました。	谷田食生活改善グループ	9月	1	成人	20人	6	100					○									○	○	○	
南	谷田	45 - 20	1510	男の料理教室	男性が料理に関心を持ち、家庭生活でも存在感がますます発揮できるようにしました。	谷田食生活改善グループ	2月	1	成人	20人	13	100							○							○	○	○	
南	六辻	46 - 19	1510	夏休み子供公民館⑥料理教室	食の大切さ、楽しく食べる事を学び、体に良い美味しい食事を作りました。	料理指導者	8月	1	小学生	20人	18	なし							○			○						○	
南	六辻	46 - 32	1510	親子公民館②親子食育料理教室	親子で楽しく料理をしながら美味しく食べ、食の大切さについて学びました。	食育教室講師	12月	1	小学生とその保護者	20人	17	なし				○			○				○					○	
南	六辻	46 - 35	1510	親子公民館⑤米粉で作るお饅頭教室	親子で、米粉を使って子豚の中華饅頭、パンダのチョコレート饅頭を作りました。	埼玉県栄養士会地域活動栄養士	12月	1	小学生とその保護者	20人	20	なし							○				○						
南	六辻	46 - 37	1510	減塩とBMI値を学ぶ料理教室	楽しく料理をしながら美味しく食べ、食の大切さについて学び食を通しての健康作りしました。	食育教室講師	1月	1	一般	19人	19	100							○							○	○	○	
南	別所	48 - 32	1510	簡単にできるお正月おもてなし料理教室	若い世代の方々にも受け入れられるようなお正月向け料理の調理実習。	料理研究家	12月	1	どなたでも	16人	15	100							○							○	○	○	○
南	善前	50 - 41	1510	春のおもてなし教室	桃の節句にちなんだ飾り巻きずし作り。	料理研究家・助手・託児ボランティア	2月	1	どなたでも	16人	14	100							○	○		○	○	○	○	○	○	○	
緑	原山	54 - 13	1510	男性のための料理教室	健康を考えた料理を基礎から習いました。	ヘルスメイト役員	11月～12月	2	成人男性	24人	23	100				○										○	○	○	○
緑	原山	54 - 14	1510	手打ち蕎麦作り教室	そば粉からおいしい二八蕎麦を手打ちで作りました。	そば打ち研究家 そば打ち経験者	11月	1	成人	12人	12	100							○							○	○	○	
緑	原山	54 - 15	1510	食育講座「季節体験教室」	季節を実際に自分で削り、出汁をとって試飲しました。	食品会社職員	1月	1	成人	30人	27	100							○							○	○	○	
緑	美園	55 - 14	1510	太巻き祭り寿司作り教室	太巻き祭り寿司作りを通して食育を学びました。	料理研究家・管理栄養士	3月	1	成人	12人	12	100							○						○	○	○	○	
岩槻	岩槻本丸	56 - 14	1510	20代のためのクッキングスクール～初心者でも作れるX'mas party menu～	20代が簡単に豪華なクリスマスパーティーメニューの作り方を学び、同世代の交流を行うことを目的とした講座。	管理栄養士	12月	1	20代～30歳までの男女	20人	12	100				○		○							○	○			

平成28年度各公民館事業報告書

件数total		総回数		参加延数total		食育に関する学習事業(事業種別コード:1510)																					
89		97		1512																							
区	公民館名	館No. (名簿順)	館内講座No.	事業種別 コード	事業名	主な内容	講師肩書	開催時期	回数	対象	定員	参加延数	講座満足度	中止 コード	中止の理由	三食 いっしょ に	確かな	まごころ	食文化 推進	乳幼 児期	学齢 期	青年 期	成人 期	壮年 期	高齢 期	継続	
岩槻	岩槻本町	57	- 15	1510	中華料理教室	旬の食材を使った中華料理を作った。	料理研究家	4月	1	どなたでも	24人	24	100						○				○	○	○	○	○
岩槻	岩槻本町	57	- 16	1510	和菓子教室	桜にちなんだ和菓子づくりを通して、五感で春を楽しむ。	製菓衛生師	2月	2	どなたでも	24人	44	100						○				○	○	○	○	○
岩槻	岩槻本町	57	- 17	1510	洋菓子教室	家庭でもできる洋菓子を作った。	お菓子作り研究家	2月	1	どなたでも	24人	24	100					○					○	○	○	○	○
岩槻	岩槻本町	57	- 19	1510	フランス料理教室	外国の文化と料理を学びました。	フランス料理ディプロマ	11月	2	どなたでも	24人	34	100				○		○				○	○	○	○	○
岩槻	岩槻南部	58	- 24	1510	手打ちそば教室	手打ちそばづくりを学びました	さいたま市職員 公民館館長	11月	1	成人	16名	16	100						○					○	○	○	
岩槻	岩槻南部	58	- 25	1510	郷土料理教室(太巻き祭り寿司をつくる)	千葉県郷土料理「太巻き祭り寿司」を作りました	料理研究家・管理栄養士	11月	1	どなたでも	16名	16	93						○					○	○	○	○

4 公立小・中学校の食育取組状況

○小学校

【西 区】	指扇小学校	馬宮西小学校	植水小学校	栄小学校	指扇北小学校
【北 区】	日進小学校	大宮別所小学校	泰平小学校		
【大宮区】	大宮小学校	大宮東小学校	大宮南小学校	大宮北小学校	芝川小学校
【見沼区】	片柳小学校	大谷小学校			
【中央区】	与野八幡小学校				
【桜 区】	栄和小学校	中島小学校			
【浦和区】	高砂小学校 岸町小学校	木崎小学校 針ヶ谷小学校	本太小学校 大東小学校	仲町小学校 常磐北小学校	上木崎小学校
【南 区】	大谷場小学校 善前小学校	辻小学校 向小学校	文蔵小学校	沼影小学校	浦和大里小学校
【緑 区】	三室小学校 芝原小学校	原山小学校	道祖土小学校	中尾小学校	大牧小学校
【岩槻区】	岩槻小学校	川通小学校	慈恩寺小学校	東岩槻小学校	西原小学校

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do					Check					
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
指扇小学校	異学年交流給食	◎					○						新規	西区	児童全員 (年に2回)	・年に2回(12月、2月)、1年～6年生で構成した集団で、給食を取り交流を図る。	心身の発達の違いを認識し、それぞれの立場を理解し、協力して活動する態度を養うことができた。上の学年は、下の学年の面倒を見たり、レクを考えたりする。
馬宮西小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	◎		○	○		○						継続	西区		・グリーンピースのさやむき(2年生5月) ・そらまめのさやむき(1年生6月) ・とうもろこしの皮むき(3年生7月) ・学校農園での食材の栽培活動(通年) ・同学年交流給食 ・セレクト給食 ・異学年交流給食 ・お別れ給食 ・リクエスト給食	・食材への関心が高まる
植水小学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○	○	○						継続	西区	1年 75名 2年 75名 特別支援学級14名	・グリーンピースのさやむき(1年、特学) ・とうもろこしのさやむき(2年、特学)	・食材を手に取り、触れたりする体験活動をすることで、食べ物への興味・関心が高まった。苦手なものでも進んで食べようとする姿や楽しく食事をする姿が見られた。
植水小学校	交流給食	◎					○						継続	西区	全校児童 445名 (年3回)	・なかよし給食(1・6年、2・5年、3・4年のペア学年で、交流給食)	・他学年との交流で楽しく食べるためのマナーやコミュニケーション力が向上した。
植水小学校	給食時間における食に関する指導	○	○	○	○	○	○						継続	西区	全校児童 445名	・給食実施日に、お昼の放送で、給食委員が学校栄養職員の指導のもとに作成したその日の給食に関する原稿を給食時間に放送する。	・食に関する興味・関心が高まった。
栄小学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○	○	○						継続	西区	1学年89名 1回 2学年85名 1回	空豆のさやむき(1年生) 6月1日(水) グリーンピースのさやむき(2年生) 5月6日(金)	体験活動を通して、食への関心をもつことができた。いつもは食べない苦手な児童も自分がさやむきをしたものなので食べることができた。食材に触れる貴重な経験となった。
栄小学校	はびねす給食(交流給食)	○					○						新規	西区	596名	全学年がまざった異学年グループで一緒に給食をたべる。5年生が配膳し、6年生は1年生の面倒を見る等役割分担をして、給食準備から配膳までを安全に行い、正しい給食のマナーを知り、楽しく給食を食べる。 場所は全教室 実施日は1月30日(月)	他学年との交流を通して、食事のマナーやコミュニケーション力がついた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度					
		5つの「食べる」 三食	いっしょ 確かな目	まごころ 食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)	取組内容〔実績〕 (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等		
栄小学校	試食会	○	○		○	◎							○	継続	西区	年1回 (10月)	学校栄養士(管理栄養士資格あり)による講話を実施し、学校給食の意義を理解してもらい、家庭での食事に対する意識向上を促した。 場所:多目的室 実施日:10月20日(木)	学校給食の意義やさいたま市が進めている食育推進についても触れ、朝食の大切さを伝えた。試食会当日のメニューは和食にした。本校の給食への取組を紹介する良い機会となった。
指扇北小学校	・交流給食 ・体験活動を取り入れた食育の推進	○	◎	○	○	○	○							新規	西区	全児童495名	・同学年交流給食 ・セレクト給食 ・異学年交流給食 ・お別れ給食 ・リクエスト給食 ・ピクニック給食(給食を弁当箱に入れて校庭で食べる) ・栽培活動(1. 2. 3. 5. 6年)	給食を楽しみにする児童が多くなった。体験活動を取り入れることで、苦手な食べ物も食べようとする児童が多くなった。 学校ファームを利用して栽培活動をしているが、教職員だけでは管理が難しい。
日進小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○	○	○	○								○	継続	北区		・にこにこ給食(交流給食)・・・6.11月 ・さわやかランチ(テラスでの会食)・・・5～10月 ・体験活動 5月グリーンピースのさやむき(2年生) 6月空豆のさやむき(3年生) 7月とうもろこしの皮むき(1年生) 1月くわいの芽取り(1年生)	・にこにこ給食では、会食・ゲームなどを通して、異クラス、または異学年同士の交流が深まった。年2回の実施ではなく、回数を増やせるとよい。 ・体験学習では、給食の食材にふれることにより、苦手なもので食べてみようという意欲につながった。
大宮別所小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○			○	○	○						○	継続	北区	1年生125名 2年生118名 各1回	・グリーンピースのさやむき(1年生) ・トウモロコシの皮むき(2年生)	さやつきのグリーンピースをむいた。トウモロコシの皮は初めてむいたという児童が多く食材にふれる貴重な経験となっている。
大宮別所小学校	異年齢集団での食事交流による食における社会性の育成	○											○	継続	北区	全児童769名 4回	・異学年交流給食(縦割り給食)3回 ・全校徒歩遠足による異学年交流昼食(弁当)2回	異年齢集団での食事の場を多く設けたことにより、他学年に気を配りながら、楽しく食事をとる社会性を育てる手立となった。
大宮別所小学校	体験活動を取り入れた食への感謝と食文化への意識を高める活動				○	○	○						○	新規	北区	5年生116名	・JAへの申し込みによる、バケツ稲キットを利用して、社会科での米づくりの学習と連携しながら、一人一鉢のバケツ稲作りに取り組んだ。	土づくりから育苗、分けつ、水管理、中干、稲刈り等の作業を体験することにより、食を生産することの難しさや大変さを実感することにより、食への感謝や食文化についての意識を高めることができた。
泰平小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○					○	○					○	継続	北区	2年生133名 3年生104名	2年生グリーンピースのさやむき 3年生とうもろこしの皮むき	体験を通して、食材への感謝の気持ちや関心をもつことができた。 残さず食べることを意識させることが課題である。
泰平小学校	交流給食		◎										○	継続	北区	全校児童690名 全3回	なかよし給食(異学年交流給食) 交流給食(同学年異クラス)	他学年、他学級との交流でコミュニケーション力が身につけてきた。 6年生が1年生に牛乳パックのリサイクルの方法を教える等、上級生から下級生に教える活動としても取り組めた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check							
学校名	事業名	計画の目標					平成28年度											
		5つの「食べる」 三食	い っ し ょ	確 かな 目 標	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 /継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	取組内容 [実績] (対象・実施日・場所・内容等)	成果・課題等
泰平小学校	児童が考えた給食の提供	○	○			○	○							継続	北区	6年生123名	6年生の家庭科で1食分の献立を考える学習において、実際に学校給食の献立を考えた。児童の考えた献立の中から8日分を取り上げ、実際に給食を実施した。	栄養のバランスのよい食事の実践的な理解ができた。5年生以下の児童は、給食を通してその日の給食や家庭科の学習に興味をもつことができた。
大宮小学校	体験活動を取り入れた食育の推進		◎			○	○							継続	大宮区	1年 87名 1回 2年108名 1回 3年 80名 1回	・グリーンピースのさやむき(1年) ・そらまめのさやむき(2年) ・とつもろこしの皮むき(3年)	○本日の給食に使われる食材であることを知ることで、給食への関心を高める。
大宮小学校	交流給食		◎					○						継続	大宮区	全児童(541名) 年3回	・年3回(7,10,2月)、1～6年生で構成した集団で給食を食べて交流を図る。	○給食の準備から配膳まで、会食、後片付けまで協力し活動することができた。
大宮小学校	児童が考えた給食献立の実施	○	○			○	○							継続	大宮区	6年 93名 1回	・6年生の家庭科で献立を考える学習において、給食の献立を考える。実施可能な献立を実施した。	○家庭科と連携して、献立をたてることで、給食や栄養バランスに関する意識が高まった。
大宮東小学校	家庭地域との連携を図り、食育を推進する活動	◎				◎	○	○						新規	大宮区	全児童・全家庭 1回	対象:全児童・全家庭 実施日:夏季休業中 場所:各家庭 内容等:「家族で作ろう朝ごはん」の実施 児童が、学校で学習した食に関する内容を生かして、また、発達段階に応じて、家族と一緒に朝ごはんを作る。学校で配付したシートに記録し、2学期に教室掲示した。	シートに書かれた児童や保護者の感想から、「共食の楽しさを感じる」「朝食への関心が高まる」「児童が調理を好きになる」などの効果が見られた。
大宮東小学校	教科との関連を図る食育の推進					○	◎	○						新規	大宮区	5年児童1回	対象:5年全児童 実施日:平成28年7月8日(金) 場所:集会室 内容:学校給食で食べる米を生産している生産者から、米づくりについての話を聞いた。	社会科学習のねらいである米の生産についての理解を深め、食育の観点からは、自分たちの食糧の生産に対して興味・関心を持つことができた。
大宮東小学校	教科との関連を図る食育の推進	◎				◎	○	○						新規	大宮区	6年児童1回	対象:6年全児童 実施日:平成28年12月(児童の取組) 平成29年2月(給食での実施) 場所:家庭、学校 内容:家庭科学習で学んだ1食分の献立作りを生かして、家庭の協力を得て、児童が料理を作成した。バランスよく給食で実施可能な4品を選び、学校給食で実施した。	家庭の協力を得ることで、家庭の食に関する関心が高まるとともに、家庭で実施している献立を学校給食で実施し、広めることができた。児童が考えた献立を給食で実施することにより、栄養バランスのよい食事の実践的な理解につながった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等				
		5つの「食べる」 三食	いっしょ 確かな目	まごころ 食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)		取組内容〔実績〕 (対象・実施日・場所・内容等)			
大宮南小学校	体験活動を取り入れた食育の推進		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	継続	大宮区	1～4年生	対象:1～3年生 実施日:5月(2年)、6月(1年)、7月(3年) 場所:各学級 内容:グリーンピースのさやむき(2年)そらまめのさやむき(1年)とうもろこしの皮むき(3年)	児童の感想シートには、「大変だったけど楽しかった」「給食のお手伝いができて良かった」等のコメントが寄せられ、食や給食への興味・関心を高めることができた。保護者にも一言いただき、家庭との連携も図ることができた。
大宮南小学校	教科との関連を図る食育の推進	○	◎	○	○	○	○								新規	大宮区	3、4、6年生	対象:3・4・6年生 実施日:2～3学期 場所:各学級 内容:家庭科や学級活動、総合など食育と関連した教科にTTとして栄養教諭が専門性を生かした授業を展開し、食に関する指導を行った。	授業だけでなく、「おやつ日記」や「かみかみチャレンジカード」等継続的な事後指導を行うことで、実生活への定着を図ることができた。家庭との連携をより綿密にし、協力して食育を推進していきたい。
大宮南小学校	家庭・地域との連携を図った食育の推進		◎	○	○	○						○	○	○	継続	大宮区	1年の保護者・PTA役員・学校評議員	対象:1年の保護者、PTA役員・学校評議員 実施日:6/16,2/16(学校給食運営協議会)7/4(学校評議員会),11/15(給食試食会) 場所:国際学習室、応接室、家庭科室、教室 内容:家庭・地域の方に給食を食べてもらい、食への関心を向上を図る。	給食試食会の事後アンケートでは、「子どもたちに、おいしくて安心・安全な給食を届けるために、こんなに苦労をしているとは知らなかった。」というような言葉をいただき、家庭での料理づくりに生かされていることと思われる。
大宮北小学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○	○	○								継続	大宮区	1年生 2年生	・そら豆のさやむき、絵本の読み聞かせ(2年生:5月) ・とうもろこしの皮むき(1年生:7月)	体験活動を取り入れることで、食べ物に対して親しみをもち、苦手の食べ物でも食べようとする意欲ができた。
大宮北小学校	なかよし給食		◎				○								継続	大宮区	全校児童 2回	なかよし学級(1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生)で、給食の準備から食事、片付けを行った。屋休みには、お楽しみ会を実施した。	他学年との交流でコミュニケーション力が身についた。心身の発達の違いを認識し、それぞれの立場を理解し、協力して活動する態度を養うことができた。
芝川小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○	○	○	○	○									継続	大宮区	全校児童	・ふれあい給食(全学年縦割交流)年10回 ・給食時に配付するおたよりにて、食育の推進 ・給食委員により給食目標のおしらせ(毎月9日) 【体験活動】 ・5月グリーンピースのさやむき(2年) ・5月そらまめのさやむき(1年) ・7月とうもろこしの皮むき(2年)	ふれあい給食では会食を通して交流が深まった。おたよりを発行することにより、食への興味関心が増した。給食委員の児童が話をする中で、お知らせを聞く児童の言葉で分かりやすく、内容が入りやすかった。お知らせをする児童はよく読むので知識が深まった。体験活動を取り入れることで食べ物に対して親しみをもち、貴重な体験となっている。
片柳小学校	体験活動を取り入れた食育の推進		◎	○	○	○	○								継続	見沼区	①101人 ②74人 ③568人	①グリーンピースのさやむき(1学年・5月) ②とうもろこしの皮むき(2学年・7月) ③なかよし給食(全学年・6、11月)	体験活動を取り入れることで、食べ物への興味・関心をもつことができた。食材に触れることで、食への感謝の心が養われた。
大谷小学校	なかよし給食		◎				○								継続	見沼区	全児童(2回)	・兄弟学級で給食を一緒に食べた。昼食後、高学年の計画したなかよし遊びを行った。	異学年で食事を共にすることで、それ以降学校生活でのコミュニケーションを図る姿が見られた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do			Check						
学校名	事業名	計画の目標				ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」 三食	確かな目 いっしょ	まごころ まごころ	食文化 食文化	食育の推進 食育の推進	乳幼児期 学齢期	青年期 青年期	成人期 成人期	壮年期 壮年期	高齢期 高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
大谷小学校	給食週間の食育推進活動				○	○					○	新規	見沼区	全児童	・給食の献立作成 優秀献立を実際に給食として提供。(高学年) ・調理員への感謝の手紙(中学年) ・全部食べようキャンペーン(低学年)	家庭科と連携し献立を立てることで、栄養バランスに対する意識が高まった。
大谷小学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○	○					○	継続	見沼区	5年生	5年生で米作り体験活動を行う。4月に米作りについてオリエンテーション・5月に見沼田んぼで田植え体験・9月稲刈り・10月調理実習・11・12月まとめと発表	体験活動で収穫した米を家庭科の調理実習して食べたことで、食に対する関心が高まった。
与野八幡小学校	体験活動を通じた食育の推進	○	○	○	○	○					○	継続	中央区	①34回 ②6学年児童153名(10食) ※年度途中栄養技師交代	①めしあがレターを通しての食育の推進 ②「ゆめの給食献立」作成を通しての食育推進	児童の職への関心が高まり、残食が減少した。食への感謝の気持ちを高めることができた。
栄和小学校	児童が考えた給食の提供	○	○		○	○					○	新規	桜区	5回	6年生の総合的な学習の時間で、1食分の献立を考える学習において、給食の献立を考える。給食に実際に取り上げることで、全校児童の食に対する関心が高まるようにする。	6年生が考えた献立を提供することにより、同学年では食に対する理解が深まり、低・中学年では総合的な学習の時間に対する期待が高まった。児童の思いを忠実に献立に反映させることと調理作業や価格とのバランスが課題である。
栄和小学校	野菜の皮むき体験	○		○	○	○					○	継続	桜区	2回	給食で使用する野菜の下処理を手伝うことによって、その野菜に関心を持ち、食べる意欲が高まるようにする。 5月にグリーンピースのさやむき(2年) 7月にとうもろこしの皮むき(3年)	児童が苦手とする野菜の喫食率が上昇した。グリーンピースは厳しいが、とうもろこしについては地場産物を活用できると、さらに効果的だと思われる。必要量の確保が課題である。
栄和小学校	交流給食		◎		○	○					○	継続	桜区	2回	異学年のペアの児童と給食を食べ、交流が深まるようにする。	異学年のペアの児童と給食を食べ、交流することで互いを思いやり好ましい人間関係を育てることができた。
中島小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○			○	○					○	継続			・トウモロコシの皮むき(1年生) ・そらまめのさやむき(2年生) ・グリーンピースのさやむき(3年生) ・学校農園での野菜の栽培活動(通年)	・野菜を育てることで、責任感を育てるとともに、食への興味・関心が高まり、野菜を食べようという意識が高まった。 ・体験活動を通して食材に興味・関心を持ち、食べようとする意欲が増した。また、生産者の方々や給食を作る調理員さんへの感謝の気持ちが高まった。
中島小学校	交流給食	○	○	○	○	○					○	継続			・異学年交流給食(全学年) ・調理員との会食	他学年との交流によって、様々な人との関わりをもてる機会をつくり、食事のマナーやコミュニケーション力の向上につながった。また、調理員さんとの会食によって、感謝の気持ちが一層高まった。
高砂小学校	体験活動による食育の推進				○	○					○	継続	浦和区	1年生 2年生	・そらまめのさやむき(1年生) ・トウモロコシの皮むき(2年生)	体験活動では、食べ物への興味関心が高まり、苦手な食べ物でも食べようとする意欲がでた。
高砂小学校	本とのコラボ給食の提供	○			○	○					○	継続	浦和区	全児童 (1回)	・朝のテレビ放送で絵本の読み聞かせをし、絵本に出てくる料理を給食で再現して食べる。	絵本で出てくる料理を実際に目で見て食べることで、食と読書への関心が高まった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan		Do										Check					
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」 三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続		実施場所	参加者数 (実施回数)
高砂小学校	児童の考えた給食の提供	○					○	○					継続	浦和区	5、6年生 (8回)	5、6年生が家庭科で学習したことを活かして献立を作成し三学期の給食で取り上げる。	栄養素について考えることで、食材や生活改善への関心と日常の食生活への理解が高まった。
木崎小学校	体験活動を取り入れた食育の推進					○	○	○					新規	浦和区		・グリーンピースのさやむき(1年生) ・トウモロコシの皮むき(2年生) ・ランチルーム給食 ・なかよし給食(異学年交流給食)	体験活動を取り入れることで、食べ物に対して親しみをもって進んで食べる姿が見られたり、楽しく交流し食事をする姿が見られた。
本太小学校	体験活動を取り入れた食育の推進					○	○	○					継続	浦和区	1年生135名 2年生130名 1回	・トウモロコシの皮むき(1年生) ・グリーンピースのさやむき(2年生)	さやつきのグリーンピースをはじめてみた。トウモロコシの皮は初めてむいたという児童が多く食材にふれる貴重な経験となっている。
本太小学校	交流給食		◎										継続	浦和区	全児童797名 1回	・異学年交流給食 ・ランチルーム給食	異学年のペア学級と給食を食べ、交流することで互いを思いやり好ましい人間関係を育てることができた。
仲町小学校	体験活動を取り入れた食育の推進		◎										継続	浦和区	1年生・2年生	・グリーンピースさやとり ・とうもろこし皮むき	児童の食への関心が高まり、食に携わる人たちを知ることができた。
上木崎小学校	交流給食		◎										継続	浦和区		6月ランチルーム・10月ランチルームと校庭、仲良しグループで異学年と一緒に給食や弁当を食べる	他学年との交流で楽しく食べるためのマナーやコミュニケーションの力がついた。
上木崎小学校	給食時間のお便りを通した食育の推進						○						継続	浦和区		給食の時間に給食に関連したお便りを配付し、教室で担当者が読む。その後掲示する。	食に関する関心が高まった。
岸町小学校	体験活動を取り入れた食育の推進		○	○	○	○							継続	浦和区		・とうもろこしの皮むき(1年生)7月 ・グリーンピースの皮むき(2年生)5月 ・枝豆のさやもぎ(3年生)7月 ・学園内での栽培活動(通年)	体験活動を通じ、食材への関心や食への感謝の心が養われた。体験活動を行った学年だけでなく、学校全体で残菜がとても少なくなった。
針ヶ谷小学校	体験活動を取り入れた食育の推進					○	○	○					継続	浦和区		1年生 グリーンピースのさやむき 2年生 そらまめのさやむき 3年生 とうもろこしのさやむき	体験活動をすることで心を込めて食べようとする気持ちや苦手な食べ物も食べようとする意欲が出た。
針ヶ谷小学校	野菜の栽培・収穫												継続	浦和区		学校農園では毎年野菜を育てている。 1年生 さつまいも 2年生 大根 3年生 大豆→豆腐作り 5年生 米 6年生 じゃがいも	野菜を育てることで季節感を味わったり、食への興味を持つたりと意識が高まった。
針ヶ谷小学校	給食時間における食に関する指導	○	○	○	○	○							継続	浦和区	全児童185回	本校児童を対象とし、給食に関する資料を配布し、放送で読み上げる。	日々、情報を発信し続けることにより、児童の食への関心が高まった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」 三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)
大東小学校	米作り(農業体験)	○	○	○	○	○	○						継続	見沼区		第5学年で米作りの体験活動を行う。5月に体験農園での田植えを行い、総合的な学習の時間に取り組む。実際に自分たちで稲の苗を植えることや、生産者の方々とふれあいから、自然の恵みに感謝させようとする。併せて、日本の食文化である米についても理解を深める。 苗作り・植え付け(5年生)【5月】 収穫(5年生)【10月】	自らの手で植えた稲が実り、収穫された米が給食で全校生徒に提供されることで、米作りや食育への理解が深まった。
大東小学校	考えよう 自分の食生活	◎	○			○	○						継続	浦和区		朝食の欠食をなくし、のぞましい食事内容にするため、自らの食生活について考える学習に取り組む。併せて、早寝、早起き、朝ご飯が大切であることを自覚させていく。(4月～5月) 朝食の大切さ(6年生)【4月】 調べ学習(6年生)【5月】 発表(6年生)【5月】	献立作り等の活動を通して、栄養に関する知識も深まり、日常の食生活への理解と生活改善への関心が高まった。
常盤北小学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○	○	○						継続	浦和区	2年生 3年生 各年1回	・グリーンピースのさやむき(2年生) ・とうもろこしの皮むき(3年生)	体験活動と通じ、食べ物への興味関心が高まり、苦手な食べ物でも食べようとする意欲がでた。食べ物への感謝の心が養われた。
常盤北小学校	異学年との交流による食育の推進	◎			○	○	○						継続	浦和区	全学年年1回	・ランチルーム給食(異学年交流給食) ・本部職員・調理員との会食	会食を通して、さまざまな人との関わりをもてる機会をつくった。食への関心や食べることの楽しさにつながり、マナーやコミュニケーション力の向上につながっていると考えられる。
常盤北小学校	給食週間での食に関する作品作り	○			○	○	○						継続	浦和区	全学年年1回	・各学年での給食に関する作品づくり(給食週間) ・朝会での給食委員の発表、調理員からのお話 ・給食室の一日(給食時間でのテレビ放送)	給食週間に合わせて、各学年が給食や食に関するかるたや詩、標語づくりなどを通して、自分の食生活や給食について振り返ることができた。
大谷場小	お誕生日給食		○		○	○	○						継続	南区	全児童 11回	・全校児童 ・毎月 ・教室 ・誕生月の児童にカードを渡してお祝いする。 ・児童に人気のメニューを出す。	人気のメニューとあって、児童は楽しみにしている。カードをもらい祝ってもらうことを喜んでいる。
大谷場小	体験活動を取り入れた食育の推進		○		○	○	◎						継続	南区	1年 91名 2年 90名	1年 グリーンピースのさやむき 2年 とうもろこしの皮むき	食べるのが苦手な児童も、自分達がむいた食材ということで、おいしく食べる事ができた。 調理員さんや家の人等に感謝の気持ちをもつことができた。
辻小学校	給食週間				○	○	○						継続	南区	全校生徒	1/16～20の給食週間で、アンケートで人気のあったメニューを中心に給食を提供した。17日の給食ありがと集会では、児童が手紙や絵を調理員と栄養士にプレゼントした。	調理員の仕事へのやりがいにつながった。 残さず食べようという意識や、感謝の気持ちを児童がもつことができた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
学校名	事業名	計画の目標					平成28年度										
		5つの「食べる」 三食	い っ し ょ	確 かな 目	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 / 継続	実施 場所	参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
文蔵小学校	給食週間(給食委員会を中心に給食への関心を高める)	○	○	○	○	○	○						継続	南区	全児童	・1年「給食カルタ」の作成 ・2年「調理員さんへの感謝の手紙」 ・3年「野菜たっぷりメニュー」の作成 ・4年「お弁当をつくろう」 ・5年「ふるさと埼玉食自慢」 ・6年「1食分の献立を考える」	各学年が課題やテーマを決めて実施したことで、食べ物を大切に作る心や給食に携わる人たちへの感謝の気持ちを育むことができた。
文蔵小学校	学級活動における食育の推進	○		○	○		○						継続	南区	3学年	・食事のマナーについて考える。(3年生 3月教室)	食事を食べる時のマナーを守る意義を伝えることができた。
文蔵小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○			○	○	○						継続	南区	1,2学年	・グリーンピースのさやむき(1年生 5月 教室) ・そらまめのさやむき(1年生 6月 教室) ・とうもろこしの皮むき(2年生 7月 教室) ・くわいの芽とり(1年生 12月 教室)	体験活動を通して、食べ物へ興味・関心を持つことができ、児童が苦手とする野菜の喫食率が上昇した。野菜も地場産物を活用できると、さらに効果的だと思われる。
文蔵小学校	野菜の栽培・収穫	○	○	○	○		○						継続	南区	2学年	・さつまいもの栽培、収穫(2年生 11月 教室)	自らの手で植えたさつまいもを収穫し、給食で提供することで、食べ物の興味・関心が高まり、喫食率が向上した。
沼影小学校	体験活動を取り入れた食育の推進			○	○	○	○						新規	南区		さつまいもの栽培(2年生)継続	体験活動を通して、食べ物への興味・関心を高めることができた。
沼影小学校	教科との関連を図る食育の推進	○		○	○	○	○						新規	南区		「食について考えよう」(5年生・総合)栄養について学び、自分たちでテーマを決め、調べ学習を行った。 「バランスの良い献立を考えよう」(6年生・家庭科)家庭科で学んだことを活かし、1食分の献立を考え、在校生に送りたいメニューとして実際に給食に採用した。	自分が決めたテーマに沿って調べ学習を行ったことで、食への興味・関心を高めることができた。 児童が考えた献立を実際に出すことで、食に対する意識が深まり、高学年では、家庭科の学習に対する期待が高まった。目的に沿った献立を考えるためには、少なくとも2時間の授業時間が必要であった。
浦和大里小学校	交流給食		◎				○						継続	南区	全児童851名 1回	対象:全児童 実施日:5・6月 場所:ランチルーム 内容:異学年グループで一緒に給食を食べる。	他学年との交流を通して、食事のマナーやコミュニケーション力がついた。
善前小学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○	○	○						継続	南区	2年99名 1回	・トウモロコシの皮むき(2年生 7月)	トウモロコシの皮は初めてむいたという児童が多く、貴重な経験となった。
向小学校	給食時間のお便りを通した食育の推進	○	○	○	○		◎	○					継続	南区	535名 185回	給食の時間に給食に関連したお便りを配付し、教室で担当者が読む。その後掲示する。	食に関する関心が高まった。
向小学校	交流給食				○	○	○						継続	南区	535名 2回	縦割り学級で異学年と一緒に給食や弁当を食べる	他学年との交流で楽しく食べるためのマナーやコミュニケーションの力がついた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do					Check					
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度					
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
向小学校	学校ファーム												継続	南区	全校対象	1年 株 2年 トマト、大根 3年 大根 4年 ブロッコリー 5年 米 6年 人参	・学校ファームの野菜の栽培体験によって、自主性が身に付き、仲間とともに考え行動していく中で、協調性が生まれた。 ・野菜を育てることを通して、野菜と人とのかかわりや農業が盛んな地域であることへの理解を深めた。 低学年の生活科では、学校ファームの体験が、学習に大いに役立った。 ・学校ファームの野菜が給食に出ることで、収穫の喜びを感じていた。 ・学校職員、児童だけでは管理が難しいので、農家の方や保護者の協力が必要不可欠である。
三室小学校	本とのコラボ給食の提供	○											継続	緑区	全児童(1回)	11月、絵本に出てくる「しりとりのだいすきなおうさま」の料理名がしりとりになっている(セルフメンチカツサンド→トックスープ→プリン)給食を再現し、給食の時間の放送に絵本の読み聞かせをした。	絵本で出てくる料理を実際に目で見て食べることにより、食と読書への関心が高まった。
三室小学校	体験活動を取り入れた食育の推進						○	○	○				継続	緑区	1年生(1回) 2年生(1回) 3年生(1回) 4年生(1回)	・グリーンピースのさやだし(3年生) ・そらまめのさやだし(2年生) ・えだまめのさや取り(4年生) ・とうもろこしの皮むき(1年生)	給食の食材に触れることにより、苦手なものでも食べてみようという気持ちをもつことができ、生産者や給食を作る調理員さんへの感謝の気持ちが高まった。
三室小学校	地元シェフによる学校給食												新規	緑区	全児童:1回	平成28年度の新規の取組として、児童の食への関心をより高めるために、「地元シェフによる学校給食」を9月23日に実施。シェフの紹介を朝会で行ない、給食委員会によるシェフを迎える会を給食時の生放送で行った。	シェフの話聞き、本格的な中国料理を味わうことで、食への興味・関心を高められた。また、シェフという仕事にも大きな関心を持たせることが出来た。
原山小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○											継続	緑区	1学年 2学年 6学年	・とうもろこしの皮むき(1学年) ・グリーンピースのさやむき(2年生) ・テーブルマナー教室(6学年)	体験活動では食材に直接触れることにより、食べ物への興味関心が高まり、苦手な食べ物でも食べようとする意欲がでた。 テーブルマナー教室では、食事のマナーを学ぶ食文化の学習になった。
原山小学校	給食習慣												継続	緑区	全校児童	・かるた作り(1年生) ・調理員さんへの手紙作り(なかよし学級) ・標語作り(3・4年生) ・おすすすめ献立作り(5・6年生)	調理員さんへの感謝の気持ちを伝えるために、各学年が様々な取り組みを行った。食について発達段階に応じた指導ができた。また、給食習慣に食育委員会で児童が発表して意識を高めた。このことにより残菜が減った。
道祖土小学校	体験活動や異学年との交流による食育の推進												継続	緑区		・5月グリーンピースのさやむき(2年生) ・7月トウモロコシの皮むき(1年生) ・ランチルームでの異学年交流給食(各学期1回)	体験活動では、食べ物への興味関心が高まり、苦手な食べ物でも食べようとする意欲がでた。 他学年との交流では、楽しく食べるためのマナーを意識することができ、互いの食事量から心身の発達の違いを認識できた。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」 三食	い っ し ょ	確 かな 目	ま ご こ ろ	食 文 化	食 育 の 推 進	乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 / 継続	実施 場所		参加者数 (実施回数)	取組内容〔実績〕 (対象・実施日・場所・内容等)
中尾小学校	体験活動を取り入れた食育の推進			○	○	○	○	○						継続	緑区	1学年 132名 1回	とうもろこしの皮むき	観察しながら皮むきをし、ワークシートにまとめることで、その特徴を自分たちの言葉でとらえることができた。また、給食で食べる際に、食材の変化を感じ取ることができた。
大牧小学校	野菜の栽培・収穫					○	○	○						継続	緑区	1～4年 4回 5年 5回 6年 3回 (植付・収穫) 全児童525名	・学校ファームの取組は、毎年継続。本年度で8年目となる。学校ファームの収穫時期に併せて、給食でも同じ食材を取り入れることを通して季節感を味わわせる。その作物の紹介やよさを知らせることで、旬のよさを感じられるようにする。 ・野菜の栽培活動(植付・収穫) ・収穫した野菜を、給食で食材として使用し、旬を味わう。 1年 5月 なす 9月 ブロッコリー 2年 5月 ミニトマト・キュウリ等 9月 大根・白菜等 3年 5月 枝豆 9月 大根 4年 5月 落花生 9月 キャベツ 5年 5月 トウモロコシ 1月 チコリ 3月 ジャガイモ 6年 6月 ジャガイモ収穫 9月 大根	・学校ファームの野菜の栽培体験によって、自主性が身に付き、仲間とともに考え行動していく中で、協調性が生まれた。 ・野菜を育てることを通して、野菜と人のかかわりや農業が盛んな地域であることの理解を深めた。 低学年の生活科では、学校ファームの体験が、学習に大いに役立った。 ・学校ファームの野菜が給食に出ることで、収穫の喜びを感じていた。 ・学校職員、児童だけでは管理が難しいので、農家の方や保護者の協力が必要不可欠である。
芝原小学校	体験活動を取り入れた食育の推進		○	○	○	○	○							継続	緑区	1年生 1回 2年生 1回 5年生 2回	給食で使用する野菜の下処理や栽培・収穫を手伝うことによって、その野菜に関心を持ち、食べる意欲が高まるようになった。 1年生:7月にとうもろこしの皮むき 2年生:4月にグリーンピースのさやむき 5年生:9月に大根の種まき、11月に収穫	体験活動を通して、苦手なものでも食べてみようという気持ちをもつことができた。また、生産者や給食を作る調理員さんへの感謝の気持ちが高まった。
芝原小学校	児童の考えた給食の提供	○	○			○	○							継続	緑区	4回	6年生の家庭科で、1食分の献立を考える学習において、給食の献立を考えた。3学期の給食で実際に提供することによって、全校児童の食に対する関心が高まるようになった。	献立作り等の活動を通して、栄養に関する知識も深まった。自分が考えた献立が実際に給食に出るということは、児童にとって魅力的で、いきいきと家庭科の学習に取り組んでいた。
芝原小学校	本とのコラボ給食の提供		○		○		○							新規	緑区	全児童1回	本に出てくる料理を給食で再現し、給食の時間にテレビ放送で本の読み聞かせを行った。 11月:「りょうりをしてはいけないなべ」(シゲタサヤカ 講談社)	本に出てくる料理を実際に目で見て味わうことにより、食と読書への関心が高まった。
岩槻小学校	他学年との交流による食育の推進	○	○	○	○	○	○							継続	岩槻区		全学年 校庭(雨天の場合は各教室)にて他学年との交流による食育の推進 (春・秋 1回ずつ)	高学年が低学年の手本となり、交流・協力する活動を通して望ましい食習慣を身につけることができた。また、好ましい人間関係を育成することができた。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check					
学校名	事業名	計画の目標				ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」 三食	確かな目	まごころ	食文化	食育の推進	乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続		実施場所	参加者数 (実施回数)
川通小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	◎		○	○		○						岩槻区		交流給食 1学期＝縦割り班での会食 2学期＝地域の皆様との会食 3学期＝学級単位で異学年での会食 グリーンピースのさやむき＝1年(5月) ソラマメのさやむき＝2年(6月) トウモロコシの皮むき＝3年(7月)	・好ましい人間関係を育成することができた。 ・食材への興味、関心が高まり、苦手な献立(食材)でも食べようとする意欲につながった。
慈恩寺小学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○		○	○		○						継続 岩槻区	1年62名(1回) 2年54名(1回) 3年68名(1回)	・トウモロコシの皮むき(1年生、7月) ・グリーンピースのさやむき(2年生、5月) ・そらまめのさやむき(3年生、6月)	体験活動を取り入れることによって、身近な食材に親しみをもち、苦手な食べ物でも食べようとする意欲が高まった。
慈恩寺小学校	異学年交流給食	◎		○	○		○						継続 岩槻区	全児童394名(2回)	年に2回(6月、3月)に1年と5年、2年と4年、3年と6年の組み合わせで給食をとり、交流を図る。	他学年で協力して活動することで、交流が深まった。 上の学年は下の学年のお手本になるよう意識が高まった。
慈恩寺小学校	おにぎりランチ	◎	○	○	○		○						継続 岩槻区	全児童394名(1回)	活動当日の朝に、児童が自分でおにぎりを握ってきて、弁当を持って校庭で食事をする。食事は縦割り班でとる。	自分でおにぎりを握ることで、食材への感謝の気持ちが芽生え、おいしく食事をとることができた。また、作る際に家族とコミュニケーションをとる機会となった。料理への興味関心を高めることができた。
東岩槻小学校	・体験活動を取り入れた食育の推進 ・異学年交流給食 ・児童の考えた給食の提供	○		○	○		○						新規 岩槻区	全児童	・グリーンピースのさやむき(1年生5月) ・トウモロコシの皮むき(1年生7月) ・交流給食(全学年) ・6年生の家庭科で、1食分の給食を考える学習において給食の献立を考える。	・体験を通して、食材への関心が高まった。 ・他学年で楽しく食べるための食事マナーが身についた。 ・食や家庭科への関心が高まった。
西原小学校	学校給食をとおして日本の食文化を継承する試み				○	◎	○						継続 岩槻区		岩槻区のいわつき米地産の会から地場産米を購入し学校給食に取り入れている。伝統的な日本の米食と和食文化について、毎日の学校給食をとおして、地場産物の活用による地域社会との連携による食育の推進。(給食指導・通年)	社会科の学習において、生産者をゲストティーチャーとして招き、教科における食育の視点を取り入れた授業実践や教科と学校給食を関連付けて食に関する指導を充実させることができた。
西原小学校	横断的学習指導による食への理解と実践				○	◎	○						継続 岩槻区		本年度は、教育環境を生かし、家庭と連携した食生活の改善と学力向上を図る取組を全校をあげて推進してきた。中でも、給食の時間での給食指導は児童にとって分かりにくいことが多く「給食スタンダード」を作り上げた。どのクラスでも、同じ約束で給食の時間にしてきた。	学校給食は学級活動の一環として営まれ、同一の指導方法で、児童も慣れてきた。学校全体として継続指導の中で、「給食スタンダード」に対する共通理解ができた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

○中学校

【西 区】 土屋中学校

【北 区】 日進中学校 植竹中学校 泰平中学校 土呂中学校

【見沼区】 春里中学校 七里中学校

【中央区】 与野東中学校 与野西中学校 与野南中学校

【桜 区】 大久保中学校 田島中学校

【浦和区】 木崎中学校 浦和中学校

【南 区】 白幡中学校 内谷中学校

【緑 区】 東浦和中学校 尾間木中学校

【岩槻区】 城北中学校 柏陽中学校 西原中学校

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
土屋中学校	授業における食育の推進	○	○	○	○	◎	○						新規	西区	①1学年 ②2学年 ③3学年	①対象 1学年 4月 特別活動 ①対象 1学年 11月 社会科(地理) ②対象 2学年 10月 家庭科 ②対象 2学年 3月 特別活動 ③対象 3学年 1月 家庭科 *それぞれの教科にT、Tで授業を実施	特別活動、社会科、家庭科など、栄養教諭がT、Tで授業を行った。食育推進の一助となるように今後も継続して実施したい。 課題としては、授業の参画として、適切な資料提供ができるようにしていきたい。
土屋中学校	給食委員会におけるキャンペーン活動	○	○				○						新規	西区	全校生徒	給食委員会による「給食献立野菜料理1品残食調査」を 通年実施した。結果をグラフ化し、給食委員がその結果 を毎月、クラスに報告した。	好き嫌いしないで食べる、食べ残しを減らすなどの生徒の 食事への関心が高まった。
土屋中学校	給食試食会		○	○						○			新規	西区	保護者	対象 保護者(希望者) 実施 6月 内容 中学生の食事、学校給食について、パワーポイント で紹介し、給食の試食も実施。	・保護者に給食について理解を得るよい機会となった。 ・課題は、参加者を増やしていきたい。
日進中学校	給食試食会	○	○			◎	○	○					継続	北区	本校保護者 (年1回) 学校評議員 (年1回)	・全学年保護者対象で、栄養教諭より本校学校給食の概要 や特徴を説明した後、試食。 ・家庭での食育の実施の大切さを伝えた。 ・1学期に実施の学校評議員会時に給食を提供。	学校給食の意義や朝食の大切さについて伝え、学校 給食への理解が深まった。
日進中学校	給食委員会におけるキャンペーン活動	○	○				○						継続	北区	全校生徒 2回実施	給食委員会によるポスター掲示・呼びかけを行い、毎日 苦手傾向のある野菜を多く使った一品の各クラスの残食 率を掲示し、期間中に完食だったクラスには朝礼で賞状 を贈呈した。	残菜が減った。 給食の準備が早くなり、食べる時間が確保できるよう になった。 しかし、期間中はがんばっても期間が過ぎてしまうと ともにもどってしまう。
植竹中学校	各教科での食育の推進	◎	○	○	○	○	○						継続	北区	①1学年 ②2年2クラス ③3学年	①家庭科 いわしの手開きの調理実習でTTの授業を実施。また、同 時期に給食でいわしを再度提供することで、学習の振り 返りをさせた。 ②道徳 生産者や食材への感謝の心を育む授業を実施。 ③保健体育 生活習慣病の予防について授業を実施。	①、②、③ともに、食に対する興味関心を高めることが できた。給食と関連付けて授業を実施したことで、給食 への興味関心も高まった。 しかし、毎時間の参加ではないため、継続的な指導が 必要である。 来年度は、生徒の実態に応じて特別活動などでの授 業を検討したい。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do			Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
植竹中学校	図書館コラボ給食				○	○							新規	北区	全学年(3回)	図書館司書の協力のもと、料理が登場する絵本や本を参考に、実際に給食で提供した。本に関する掲示物を作成し、給食日よりや図書日よりで各家庭に周知した。また、図書館で本の展示を実施し、生徒への興味を持たせる工夫を行った。	初めての試みだったが、生徒の反応は良く、興味関心を高めることができた。来年度は、図書委員と連携を図っていきたい。
植竹中学校	試食会	○	○		○					○			継続	北区	年1回(9月)	栄養教諭からの講話を実施。学校給食の意義を理解してもらうとともに、家庭での食育の推進を促した。	学校給食の意義や本校の給食、食育の特色を説明した。家庭科のレポートや調理実習の様子などを写真を交えて紹介したことで、保護者に興味を持ってもらえる良い機会となった。
泰平中学校	つぼみの日給食		◎		○	○							新規	北区	530人	つぼみの日に合わせて、隣接する小学校と合同の献立を実施。また、それに合わせて中学校栄養士が、小学校で出前授業を行い、中学校での給食の様子を話し、食の面からもつぼみの日を盛り上げる。	小学校は、中学に上がる心構えができ、中学校は新一年生をあたたかく迎える意識づけとなった。
泰平中学校	授業における食育の推進	◎	○	○	○	○							継続	北区	1年生	・生徒作成献立の実施(1年生家庭科)	自分たちが考えた献立が形になることで、残食が減った。また、給食を楽しみにする生徒が増えた。
泰平中学校	給食委員会	◎	○	○	○	○							新規	北区	給食委員会生徒26名	・生徒給食委員会における「簡単にできる朝食」の調理実習および掲示(1～3年生委員会活動)	実際に作っている様子を写真や乾燥などでまとめ、文化祭で発表した。
土呂中学校	給食委員会におけるキャンペーン活動	○	○		○	○							継続	北区	全校生徒500人	完食週間の取り組み 毎日の結果を給食委員(学年ごと)が模造紙に記録し掲示する。	給食を残さず食べようという意識が高まった。
土呂中学校	体験活動を通じた食育の推進		○	○	○	○	○						継続	北区	・1年生(1クラス) ・給食委員会(24名) ・環境委員会(24名) ・特別支援学級(2名)	・1年生(家庭科)『グリーンピースのさやむき』 ・給食委員会『とうもろこしの皮むき』 ・環境委員会『さつま芋の栽培、芋ほり』 ・特別支援学級『大根の栽培、収穫』	給食に取り入れることにより、旬の食材や地場産物への関心が高まった。また、自分が手をかけたものは苦手でも食べようとする意欲をもつことができた。
土呂中学校	給食試食会	○	○	○	○	○							継続	北区	保護者60名(年1回)	栄養士による講話及び給食の試食	学校給食への理解が深まった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do			Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
春里中学校	特別支援学級による体験活動学習						○						継続	見沼区	特別支援学級生徒	7月とうもろこしの皮むき体験を特別支援学級の生徒が行い、給食に使用した。じゃがいも、さつまいもの栽培、収穫を特別支援教室の生徒が行い、給食の食材として使用する。その取り組みを全校生徒へ掲示物、献立表、給食だよりを通して伝える。	
春里中学校	学校保健委員会	○	○				○						新規	見沼区	保健委員、教職員(学年主任、保健担当、管理職)、保護者	3学期 図書室 朝食についての講話	対象人数が少ない また、毎年行うわけではないので、定期的に啓発・発信を続ける必要がある
春里中学校	給食委員会におけるキャンペーン活動	○	○				○						継続	見沼区	全校生徒 3回実施	給食委員会によるポスター掲示・呼びかけを行い、毎日各クラスの残食率を掲示し、期間中の上位5クラスには賞状を贈呈。	残菜が減った。 給食の準備が早くなり、食べる時間が確保できるようになった。 しかし、期間中はがんばっても期間が過ぎてしまうとにもどってしまう。
春里中学校	生徒作成献立		◎				○	○					継続	見沼区	2年生生徒	1学期に2年生が家庭科で作成した献立を給食で実施し、○○さんの献立として献立表や給食だよりでお知らせした。	実際に給食で取り入れられるということもあり、熱心に取り組んでいた。
春里中学校	試食会	○	○							○			継続	見沼区	保護者	今年度は、6月に給食試食、食に関する講話を実施。	保護者の方と生徒の普段の様子を話せるよい機会となった。
七里中学校	学校試食会	◎	◎	○	○	○	◎		○				継続	見沼区	保護者29名 (1回)	5月27日に実施。試食と共に早朝からの調理室の1日の様子をスクリーンに上映。タイムリーな給食提供までの流れを見てもらうことができた。	本校ならではの工夫、栄養面、給食への思い、アレルギー対応の仕方について説明し、広く周知できた。
与野東中学校	給食試食会の実施	○		○	○	○	○				○	○	継続	中央区	保護者70名	対象:与野東中学校保護者 実施日:平成28年12月2日 場所:多目的ホール 内容:全学年保護者対象で、本校学校給食の概要を説明した後、試食。	保護者の方と、家庭での食生活の様子や、普段の給食時の様子を話すことができ、情報交換のよい機会となった。保護者に給食を食べてもらうことで給食や食への関心を深めた。
与野東中学校	学校給食を通じた食育の推進	○	○	○	○	○	○						新規	中央区	・全校 ・798人	対象:全校生徒 実施日:毎日 場所:各教室 内容:給食時間の全校放送を通して、当日の献立に使用した地場産物の紹介や栄養、また、生徒にとって身近な学校行事を絡めながら、体のコンディションづくりと食との関係を伝えたりした。	・生徒の食への関心が高めることができた。 ・地元の食材を給食に取り入れ紹介していくことで、農家や生産者の方への感謝の気持ちや地場産物に対する意識が高まった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do			Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
与野東中学校	残食ゼロキャンペーン	○	○	○	○	○							新規	中央区	・全校 ・798人	対象:全校生徒 実施日:平成28年9月1日～平成29年3月17日 場所:与野東中学校 内容:残食「0」のクラスを翌日の給食時間に発表したり、完食クラスにシールを貼って見える化する掲示物を作成し、残さず食べようという意識づけを行った。また表彰を行った。	・給食を残さず食べようという意識が高まった。 ・食材を大切にすることが高まった。
与野東中学校	学校保健委員会	○	○			○	○	○	○	○			継続	中央区	約40名	対象:保健委員会生徒・教職員・PTA・学校医等 実施日:平成29年1月16日 場所:多目的ホール 内容:本校の給食の残食の傾向についてデータを用いて発表した。	・給食を残さず食べようという意識が高まった。 ・本校の残食の傾向や食育の取り組みを理解してもらい、学校全体で給食指導をさらに充実させていくための意識を高めることができた。
与野西中学校	体験活動を取り入れた食育の推進	○	○	○	○	○							新規	中央区	生徒全員	<給食委員・特別支援学級> ・グリンピースのさやむき(5月) ・ソラマメのさやむき(6月) ・とうもろこしの皮むき(7月) <自然科学部> ・じゃがいもの栽培、収穫(6月) <全学年> ・図書とコラボした給食(1月) ・交流給食(2月) <2年> ・家庭科の授業で考えた献立(2月)	・生徒が主体的に食育に関わることにより、食への関心が深まり、給食の時間を楽しみにしている生徒が増えた。図書とコラボした給食や、生徒が考えた献立は、新しいメニューも増え、喫食率も良かった。来年度は、交流給食の実施回数増に加え、くわいの薄皮むきも、後期委員会の活動として実施できたらと考えている。
与野西中学校	地元シェフによる学校給食		○	○	○	○							新規	中央区	生徒全員	<全学年> ・地元シェフによる学校給食(10月) シェフによる朝会、地元野菜を使用したイタリア料理の提供	・イタリアで修業されたシェフの話や、本格的な料理に、生徒も関心が深く、当日の給食もよく食べていた。来年度もぜひ継続して実施していきたい。
与野西中学校	給食試食会の実施	○	○	○	○	○							新規	中央区	保護者・地域の方・給食納品業者90名	・給食試食会(9月) 給食納品業者の話、本校の給食について、給食の試食	・今年度より保護者だけでなく、地域の方、給食納品業者も対象に試食会を実施し、より本校の給食・食育に対する理解を深めることができた。来年度も継続して実施していきたい。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数 (実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進
与野南中学校	体験活動を取り入れた食育の推進				○		○						継続	中央区	40名	内容1:学校ファームにおいて、さつまいもやブロッコリーの栽培、収穫を行い、収穫した作物を学校給食食材として活用する。 対象:給食委員会の生徒 実施日:年間を通して 実施場所:南中ファーム 内容2:とうもろこしの皮むき 対象:特別支援学級の生徒 実施時期:7月 実施場所:教室	・生徒自身が野菜を栽培し、その野菜を学校給食に取り入れることで、苦手な食材を克服できた生徒も見られた。 ・野菜を作る人の思いを知り、食物の大切さを考えることで、感謝の気持ちを育むことができた。 ・とうもろこしの皮を使用してとうもろこし人形を作り、個性的で楽しい作品ができた。普段お世話になっている先生にプレゼントして交流を持つことができた。	
与野南中学校	食に関する指導の充実	◎				◎	○						継続	中央区	350名	内容1:学校保健委員会での、生活習慣改善についての講演 対象:保健委員会生徒、保護者、関係教職員 実施日:平成28年12月 内容2:特別活動授業 対象:1,2年生 実施期間5~10月	・生徒、保護者が学校全体の生活の問題点を把握することができ、前向きに改善しようという意欲を持つことができた。 ・マナーを守って食べること、食べられることに感謝することへの意識が高まり、給食の残菜が減少した。	
大久保中学校	給食試食会	○	○			○	◎			○	○	○	○	継続	桜区	本校保護者(年1回) 学校評議員(年2回) 地域の方(年1回)	・全学年保護者対象で、本校学校給食の概要を説明した後、試食。 ・1,2学期に実施の学校評議員会時に給食の提供。 ・地域住人の方対象で、給食の試食。	・学校給食への理解が高まった。
大久保中学校	食育の日						○	◎		○			継続	桜区	全校生徒	毎月一回、旬の食材や地場産物を使用したメニューを提供。	旬の食材や、それに関する食文化を紹介することで、食に関する関心が高まった。	
田島中学校	食育の推進	◎					○	○	○				継続	桜区		・授業の単元の中で1日の食事バランスや朝食の重要性を理解する ・給食週間を設け給食朝会にて、給食従事者や生産者へ感謝を伝える場とする。 ・桜区産の米や野菜を食育の日(19日)に使用し、和食の文化を伝える。	・家庭科や保健体育の授業にて個人個人が課題に取り組み、食に関する知識が高まった。 ・食育の日を中心に地場の米や野菜を取り入れたことにより、給食週間中の給食の残食が3%以下と少なくなり、食に関する感謝の気持ちが高まった。	
木崎中学校	地元シェフによる学校給食	○	○	○			○						新規	浦和区	930名	学校給食の調理に地元シェフを招き、献立作成及び調理に参画して頂いた。また、給食朝礼を開き、シェフの話を聞くことで、生徒の食文化への関心を高めることができた。 平成29年2月7日	普段の給食とは違った本格的なフランス料理を食べることにより、和食とフランス料理の違いに目を向け、食への興味関心を高めることができた。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do			Check								
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)	
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進
木崎中学校	試食会	○	○			○	◎						○	継続	浦和区	90名 年1回 (6月)	保護者を招いての試食会を実施。栄養教諭からの講話も実施し、学校給食への理解を高めてもらうと共に、家庭での食育の推進を促した。	普段見ることのない学校給食の様子を伝えることで、保護者の給食への理解を高めることができた。また、講話では家庭での朝食や共食のあり方について話をし、家庭での食について考えてもらうことができた。
木崎中学校	給食週間				○			○						継続	浦和区	900名	給食週間に合わせて、給食委員を中心に、調理員さんへの感謝の色紙を作成した。また、お昼の放送で調理員さんから一言頂き、色紙の贈呈を行った。	生徒全員で色紙を書くことにより、一人ひとりが給食への感謝の念を持つことができた。
浦和中学校	家庭科の授業における食育の推進	◎	○			○								継続	浦和区	1年生	1年生の家庭科の授業の中で中学生の1日に必要な食事の内容について学び、給食1食分の献立を考える。生徒が作成した献立の中から栄養士が選んだ3名の献立を、実際の給食で提供した。	成長期に必要な栄養の特色を知ることで、給食の献立で多く取り入れられている食品の必要性や栄養バランスのとれた食事について理解を深めることができた。
浦和中学校	給食試食会	○	○		○	○		○	○					継続	浦和区	保護者96名	7月に保護者対象の給食試食会を実施し、栄養士による食に関する講話を行った。	保護者の方と、家庭での食生活の様子や、普段の給食時の様子を話すことができ、情報交換のよい機会となった。
浦和中学校	給食週間				○	○		○						継続	浦和区	全校生徒	浦和中給食週間(1月23日～1月27日)の取組みとして、給食委員を中心にリクエスト給食アンケートの実施・集計結果の発表(給食週間中の献立に取り入れた)、調理員への感謝の言葉を書いた色紙の贈呈、1年生が考えた給食の紹介、残菜0作戦・給食標語の発表を行った。	給食従事者の話を聞くことで、感謝の心を育てるきっかけとなった。また、郷土料理や外国料理を通して食に対する興味・関心を持つことができた。
白幡中学校	給食試食会	◎	◎			○	◎	○	○					継続	南区		給食試食会において、栄養教諭から食育に関する講話を実施予定。実際に給食を食べてもらい、給食への理解を深める。	和食で統一した献立にし、おおむね好評をいただいた。また、給食の概要を説明することで、学校給食に対する理解が深まった。
白幡中学校	給食で地場産米を味わおう		◎		○	○		○						継続	南区		月2回、さいたま市岩槻区でとれた地場産米を給食で使用する。白ご飯として給食に出すことにより、米本来の味を味わってもらう。	米のみを使用し、米本来の味を味わうことで、お米そのものの味を味わってもらうことができ、残菜も少なかった。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do				Check						
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ						平成28年度			成果・課題等	
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所	参加者数(実施回数)		取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
内谷中学校	授業における食育の推進	◎	○	○	○	○	○	○	○				継続	南区	全校 1年390人 3年400人 道徳4学級 保護者126人 地場産物は全校毎月実施	<ul style="list-style-type: none"> 給食委員会における掲示「時間マナーを守った楽しい食事」(1～3年生委員会活動) 残菜ゼロを目指した月間給食活動(1～3年生給食の時間) 牛乳を残さずに飲む啓発運動 朝食をしっかりと食べる習慣の確立 生徒作成献立の実施(1年生家庭科) いのちをいただく(1.3年生道徳) 生活習慣病について(保護者) 継続的に地場産物の小松菜を使用する 市内産の米を活用した食育の日の実施 生活習慣病とその予防(3年生授業) 	<ul style="list-style-type: none"> 残さずに食べようという意識や感謝の気持ちをもつことができた 朝食の内容を見直して給食の献立を立てることで、フードバランスガイドに沿った料理選択や食品群の摂取の成り立ちが理解できた。 成長期からの生活習慣病予防の意義を伝えることができた。生徒に直接時間をとって行って行きたい。 地場産物の米、野菜のおいしさを実感できることができた。
東浦和中学校	教科との関連を図る食育の推進	○	○	○	○	○						新規	緑区	①1学年 ②2学年 ③3学年	<ul style="list-style-type: none"> ①対象 1学年 時期 2学期 内容 保健体育で運動と食生活について、外部講師を招いて授業を実施 ②対象 2学年 時期 2学期 内容 技術・家庭科の授業で簡単に出来る、野菜の調理実習を実施 ③対象 3学年 時期 2学期 内容 遺伝子組み換え食品について 	①、②、③ともに、教科とタイアップして、生徒に教科担任・栄養士と『食』についてアプローチすることができたので、より、生徒の食への関心が高まった。	
東浦和中学校	総合的な学習の時間における『食育』	◎	○	○	◎	○						新規	緑区	2学年	<ul style="list-style-type: none"> 対象 2学年 時期 2,3学期 内容 自分たちの『食生活』について、アンケートなどにより課題を見つけ、調べるとともに、校内で養護教諭・栄養士を交えて課題の解決を見つけて、学校公開で発表。また、地元のシェフを招き『味覚の授業』を実施し。 	自分の課題を見つけることにより、より自分のこととして『食』をとらえることができた。	
東浦和中学校	保護者対象調理講習会		◎		○	○	○					新規	緑区	30名(1回)	<ul style="list-style-type: none"> 対象 保護者 時期 夏休み 内容 生徒の実態・保護者のアンケートより、『野菜たっぷり調理講習会』を、中国料理のシェフに講師を依頼し実施。 	保護者の食に関する意識が高まった	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check						
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等				
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)		
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化												食育の推進	
東浦和中学校	地場産物の活用			○	○	○	◎	○							①継続 ②新規	緑区	生徒・職員	①対象 全校生徒・職員 時期 通年 内容 地域の食材を給食に使用し、給食便り・食育メモで紹介 ②対象 全校生徒・職員 時期 11月 内容 特別支援学級の生徒が、地域の農家の方と収穫した『精白米』を給食に使用し、給食便り・食育メモで紹介	地元の食材を給食に使用することで自分たちの住んでいる地域への関心が高まり、生産者への感謝の気持ちや食材を大切に作る気持ちが高まった。
東浦和中学校	給食集会 (自分たちの食に携わる方々を招いて)			○	○	○	◎	○							新規	緑区	生徒・職員	①対象 全校生徒・職員 時期 給食週間 内容 給食に食材を納めてくださっている、生産者の方々や保護の方等、自分たちの食に携わる人々の話を聞く	自分たちの食に携わる人々の、話を直接聞くことにより、食材や家での食事への感謝の気持ちを意識付けることができた。
尾間木中学校	給食委員会におけるキャンペーン活動	○	○					○							継続	緑区	全校生徒 3回実施	今年度も、前期、後期で給食キャンペーンを実施した。牛乳飲み残しゼロ、残菜ゼロ、片付けがきれいか、食器破損ゼロ、片付けの時間についてキャンペーンを行った。	給食への意識が高まり、残菜の減少につながった。給食の準備、片付けの時間について意識できるようになってきた。
尾間木中学校	給食週間					○	○	○							継続	緑区	全校生徒	今年度も、2月に時期をずらして実施した。給食キャンペーンは予定通りに実施できたが、給食朝礼についてはインフルエンザの影響で、放送での実施となった。	給食週間と合わせて、キャンペーンを実施できたので、生徒たちの意識が高まった。
尾間木中学校	TTによる授業	◎	○	○	○	○		○							継続	緑区	1年生 2年生 3年生	TTによる授業を実施した。 道徳(1年生) 家庭科(2年生) 特別活動(2年生) 保健体育(3年生)	全学年での授業実施ができ、生徒たちの食への関心が高まった。 調理実習に参画する回数が増えたので、生徒の様子がよくわかり、献立作成などにも生かすことが出来た。
尾間木中学校	食育の日の献立の実施	○	○	○		○		○							継続	緑区	全校生徒 11回実施	今年度は、食育の日に旬の食材を使った献立を実施。また、給食委員会による昼の放送も引き続き実施した。	昼の放送に実施、また、給食新聞で、旬について特集する記事を入れたことにより、少しだが旬を意識する生徒が増えた。
尾間木中学校	給食試食会	○	○			○	○			○					継続	緑区	保護者58名	今年度は、7月に給食試食、食に関する講話を実施した。	保護者の方と生徒の普段の様子を話せるよい機会となった。
尾間木中学校	7組による体験学習					○		○							継続	緑区	年3回 7組生徒 7組教員	5月グリーンピースのさや出し、7月とうもろこしの皮むき、12月くわいの芽とり体験を7組生徒・教員で行った。当日は、そのことを各クラスの担任を通して、全クラスに伝えてもらった。	実際に食材に触れることで、生徒たちはとても興味を興味を示していた。グリーンピースご飯は残りがちな献立であるが、7組の生徒たちは自分たちが作業に関わったことで残さず食べようという意識が生まれた。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan							Do			Check							
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」					乳幼児期	学齢期	青年期	成人期	壮年期	高齢期	新規/継続	実施場所		参加者数(実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三食	いっしょ	確かな目	まごころ	食文化											
城北中学校	地元シェフによる学校給食	○	○	○	○	○						新規	岩槻区	全校生徒(1回)	地元で活躍されているシェフが地場産物を活用した給食献立を提案し、調理員と調理をした学校給食を1月31日に提供。朝礼でシェフの講話やビデオ、給食委員会による発表を行った。	職員からは、「食への関心が大いに高まった」という意見のほか、シェフの話が「進路指導という面からもホテル業界やシェフという職業に対して生徒の見聞が広がったのではないか」という意見があがった。	
城北中学校	給食試食会	○	○	○	○				○			継続	岩槻区	年1回	6月に保護者対象に給食を試食する機会を設定した。試食の前に、調理の様子やビデオを流し、給食についての講話を行った。	保護者の給食への関心を高め、学校給食の内容について理解を深めることができた。	
城北中学校	生徒が考えた献立を給食に取り入れる	○	○	○	○	○						継続	岩槻区	1学年	家庭科の教諭と栄養教諭が、1学年で献立作成の授業を行った。栄養バランス、旬、予算、調理法などを学び生徒が作成した献立を実際に給食に取り入れた。	生徒が栄養バランス、旬、予算、調理法、嗜好などを学び、献立作成に生かされていた。実際に給食に出すことで生徒の関心が高まった。	
柏陽中学校	給食に関する情報発信	◎				○	○	○	○	○	○	継続	岩槻区	毎月1回	・給食だよりの発行 ・校内掲示板による情報発信 ・学校Webページの「学校給食」の中で、献立、給食だよりの産地公表・検査結果の情報を発信 ・行事食や地場産物の活用についての「給食メモ」を給食委員生徒がクラスに伝える。	・生徒、保護者の給食や食育への関心や知識が高まった。 ・家庭へ伝えるべき情報を発信できた。 ・生徒の活動を通して食への関心を高めた。 ・生徒の感謝の心の育成はまだ十分ではないと思われる。	
柏陽中学校	給食試食会	◎								○	○	継続	岩槻区	年1回	・保護者が給食を試食する機会を設定した。 ・あわせて学校給食の内容や給食室での調理についての紹介を行った。	・保護者への給食への関心を高め、学校給食の内容についても理解を深めることができた。 ・実施後のアンケート結果も好評であった。 ・参加者をさらに増やすことが課題である。	
柏陽中学校	生徒作成献立の実施	○				○						継続	岩槻区	1学年生徒	・家庭科で、学校給食の献立づくりを行った。地場産物や旬の食材を使用することを条件に入れて行った。 ・生徒がつくった献立を、実際の給食の献立に取り入れた。	・生徒の食への関心や、地元の食材への関心が高まった。 ・生徒の授業への意欲を高めた。 ・栄養士の授業への参加については、さらに学級活動や保健体育に広げていけるか検討していきたい。	
柏陽中学校	地場産物の食材の活用			○	○	◎	○					継続	岩槻区	通年 6月強化月間	・地場産物の食材を給食に使用した。 ・給食だよりの給食メモ等で地元の食材や地産地消について生徒や保護者に伝えた。	・地産地消への関心や理解を深めることができた。 ・さらに生産者や調理者への感謝の心を育む働きかけも行いたい。	
西原中学校	生徒作成献立の実施	○				○						継続	岩槻区	3年生徒	家庭科の授業で献立作成を行い、実際の休職の献立に取り入れた。	生徒が給食にかかわることで興味が高まり、残食量が減った。	

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

平成28年度食育取組状況及び平成29年度計画

平成29年3月現在

Plan										Do			Check				
学校名	事業名	計画の目標					ライフステージ					平成28年度			成果・課題等		
		5つの「食べる」					乳 幼 児 期	学 齢 期	青 年 期	成 人 期	壮 年 期	高 齢 期	新規 /継続	実施 場所		参加者数 (実施回数)	取組内容[実績] (対象・実施日・場所・内容等)
		三 食	い っ し よ	確 かな 目	ま ご こ ろ	食 文 化											
西原中学校	試食会												継続	岩槻区	保護者25名	保護者が給食を試食する行事。学校給食の内容や給食室での調理について紹介した。	保護者の方に給食を理解していただく良い機会となっている。
西原中学校	特別支援学級による体験学習(米・大根)	◎											新規	岩槻区	特別支援学級 生徒・教員	米は市の農業体験で収穫したものを納入していただき、給食で提供した。大根は学校内の菜園で育てたものの一部を給食の材料にした。	かかわった生徒の達成感や、喜びにつながった。
西原中学校	図書コラボ給食(給食委員会作成献立)												新規	岩槻区	給食委員・図 書委員生徒	図書委員により、本からおすすめメニューを抽出してもらった。抽出したメニューを含めた献立を給食委員が作成し、実際の給食献立に取り入れた。	チームでの献立作成はかかわる生徒が多いため関心の度合いが高くなり、残食量が非常に減少した。新たな取組のため継続については検討が必要。

◎は重点プロジェクト「共食」「朝食」「協働」の取組が含まれるもの。

第2次さいたま市食育推進計画

基本理念

- ・食育を通して、心と身体の健康と、豊かな人間性、自然への感謝の気持ちを育む
- ・市民、地域、各種団体などと行政が協働し、食育に取り組む

食育の目標

さいたま市 5つの「食べる」

さ

「三食しっかり」食べる

- 小目標 (1) 健康な身体をつくる食生活を実践する
(2) バランスのとれた食事を心がける

い

「いっしょに楽しく」食べる

- 小目標 (1) 家族や仲間と、楽しく、おいしく食べる
(2) 食を通じてマナーやコミュニケーションを学ぶ

た

「確かな目をもって」食べる

- 小目標 (1) 食の安全についての知識と理解を深める
(2) 非常時に備えた食の対応力を育てる

ま

「まごころに感謝して」食べる

- 小目標 (1) 食への感謝の気持ち、食べ物を大切にする心を育む

し

「食文化や地の物を伝え合い」食べる

- 小目標 (1) 体験を通して食への関心を高める
(2) 家庭や地域に根ざした食文化を学び、継承する

発行：平成 29 年 8 月
さいたま市食育推進協議会

さいたま市保健福祉局保健部健康増進課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4
TEL:048-829-1294 FAX:048-829-1967

この冊子は 170 部作成し、1 部あたりの作成費用は、202 円（概算）です。